

データヘルス計画

第3期計画書

最終更新日：令和6年03月26日

東京地下鉄健康保険組合

STEP 1-1 基本情報

組合コード	21220
組合名称	東京地下鉄健康保険組合
形態	単一
業種	運輸業

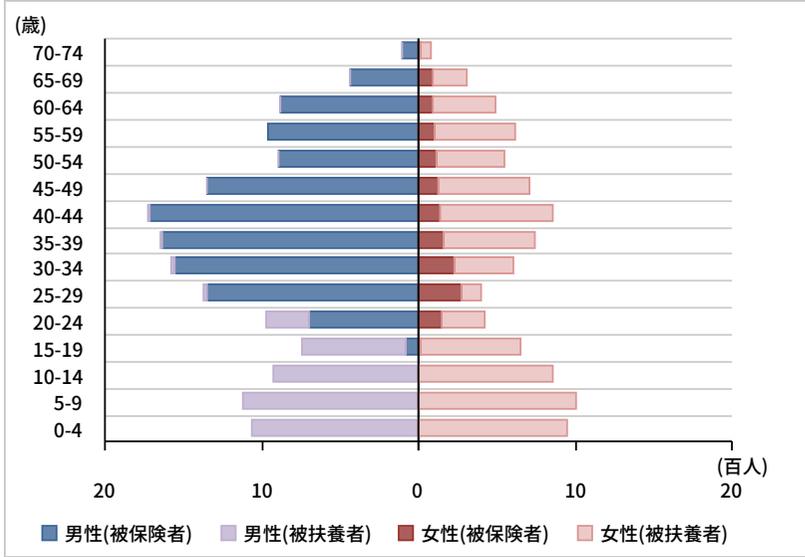
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	13,263名 男性88.25% (平均年齢41.86歳) * 女性11.7% (平均年齢40.05歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	25,122名	-名	-名
適用事業所数	17カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	17カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	85% ₀₀	-% ₀₀	-% ₀₀

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	3	0	-	-	-	-
	保健師等	3	0	-	-	-	-

		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体	8,489 / 9,744 = 87.1 %	
	被保険者	6,665 / 6,833 = 97.5 %	
	被扶養者	1,824 / 2,911 = 62.7 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体	594 / 1,394 = 42.6 %	
	被保険者	534 / 1,219 = 43.8 %	
	被扶養者	60 / 175 = 34.3 %	

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	51,814	3,907	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	18,564	1,400	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	18,271	1,378	-	-	-	-
	疾病予防費	294,976	22,241	-	-	-	-
	体育奨励費	7,182	542	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	2	0	-	-	-	-
	小計 …a	390,809	29,466	0	-	0	-
経常支出合計 …b	9,102,818	686,332	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	4.29						

令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	76人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	698人	25～29	1,353人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	1,560人	35～39	1,636人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1,710人	45～49	1,346人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	895人	55～59	956人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	881人	65～69	437人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	104人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	9人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	147人	25～29	275人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	224人	35～39	165人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	141人	45～49	131人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	118人	55～59	99人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	93人	65～69	87人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	14人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	1,062人	5～9	1,125人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	925人	15～19	660人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	279人	25～29	25人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	27人	35～39	12人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	7人	45～49	1人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	1人	55～59	0人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	5人	65～69	2人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	950人	5～9	1,003人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	862人	15～19	635人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	279人	25～29	128人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	382人	35～39	587人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	718人	45～49	584人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	433人	55～59	518人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	400人	65～69	214人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	70人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

被保険者は男性が多く、平均年齢は男女共に40歳を超えている。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

- ・特定健診は、被保険者は事業主が実施する定期健康診断として実施により、就業時間内受診可能。被扶養者は業務委託。
- ・特定保健指導は、被保険者は事業主産業医より呼び出しあり。就業時間内の指導も一部可能。被扶養者は委託業者。
- ・特定健診・特定保健指導共に、被扶養者の受診率・実施率が課題である。
- ・女性従業員が増え、活躍推進のために、事業主とのコラボヘルスで、女性向けの健康教室を実施している
- ・健康づくりの取組も対する支援が充実している。コロナ禍で参加者が減少していたが、令和5年度より以前の状況に戻つつある。

事業の一覧

職場環境の整備

保健指導宣伝	健康保険委員講習会
--------	-----------

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	健康情報誌配付
保健指導宣伝	健康管理カレンダー配布
保健指導宣伝	ホームページによる情報提供
保健指導宣伝	女性向け健康教室

個別の事業

特定健康診査事業	特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	育児冊子配付
保健指導宣伝	健康づくりマラソン
保健指導宣伝	被扶養者向け情報提供
保健指導宣伝	被扶養者向けイベント
疾病予防	人間ドック受診補助
疾病予防	C型肝炎ウイルス検査
疾病予防	胃集団検診
疾病予防	腹部エコー検査
疾病予防	大腸がん検診
疾病予防	乳がん・子宮がん検診
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	家族健康診断
疾病予防	電話健康相談
体育奨励	運動会費用補助
体育奨励	駅伝大会費用補助
体育奨励	野球大会費用補助
体育奨励	職場体育助成金

事業主の取組

1	雇入時健診
2	定期健康診断
3	健康診断事後措置
4	長時間労働者への産業医面談
5	産業医職場巡視
6	職場復帰支援
7	健康相談
8	健康・衛生教育
9	肥満解消チャレンジ
10	禁煙支援
11	歯磨き指導
12	健康関連情報提供

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備												
保健指導宣伝	2	健康保険委員講習会	・健保組合の収支、健康情報の啓発、保健事業の周知を行う。	全て	男女	18～65	被保険者	0	コロナ感染予防対策として招集開催はせず、資料配付により対応した。	事業主の年間研修計画に計上されている。	eラーニング、動画研修など検討する必要あり。	4
加入者への意識づけ												
保健指導宣伝	2	健康情報誌配付	保健誌を配布して、健保制度、収支、保健事業についての情報発信を行う。	全て	男女	18～74	被保険者	10,556	年4回、季刊誌を被保険者自宅宛て郵送。 4月、8月、10月、1月	業務委託先あり。きめ細やかな情報提供が可能。	一部web化を希望する意見あり。要検討。	5
	1	健康管理カレンダー配布	健康意識の向上を目指す。	全て	男女	18～65	被保険者	301	各事業主、職場宛てにカレンダーを送付する。 11月に配送。	毎年定例化。職場に常に掲出が可能で、目にする機会が多く、健康意識向上に役立つ情報提供が可能。	特になし。	5
	2,4	ホームページによる情報提供	健保組合からの情報発信を行う。	全て	男女	0～74	加入者全員	597	「東京地下鉄健康保険組合」のホームページをインターネットで公開。	24時間閲覧可能、スマートフォンでも閲覧可能。	最新情報への更新。	2
	2	女性向け健康教室	事業主と共同で講習会を実施して、女性特有の疾病・健康情報を提供し、疾病予防に努める。	全て	女性	18～65	基準該当者	686	2月に事業主（保健師）と共同で、30～40歳代女性を対象とした健康教室を3日間（6回）開催。新型コロナウイルス感染予防対策から一部オンラインで実施。	事業主が社内研修として就業時間内で実施。	継続実施と内容の充実。	5
個別の事業												
特定健康診査事業	3	特定健康診査	被扶養者の特定健診受診率の向上	全て	男女	40～74	基準該当者	43,211	被保険者は事業主が実施する定期健康診断として（春健診） 被扶養者は健保組合が家族健診として実施。 （6～11月） 被扶養者 対象者3,310人 受診者2,070人 実施率61.89%	被保険者は事業主が実施する定期健康診断として実施により、就業時間内受診可能。 実施。被扶養者は業務委託あり。	被扶養者の受診率向上。	3
特定保健指導事業	4	特定保健指導	特定保健指導対象者の受診率の向上	全て	男女	40～74	基準該当者	13,190	被保険者は事業主実施の定期健康診断の結果より対象者抽出 8月～ 被扶養者は健保組合実施の家族健診の結果より対象者抽出	被保険者は事業主産業医より呼び出しあり。就業時間内の指導も一部可能。 被扶養者は委託業者あり。	被扶養者無関心層の受診向上。 最終評価まで行かない途中離脱者あり。	3
保健指導宣伝	8	育児冊子配付	扶養認定情報により、第一子を出産したお母さんに育児参考書「赤ちゃん和妈妈」を毎月一年間自宅に送付する。	全て	女性	20～50	基準該当者	551	扶養認定情報により、第一子出産した被保険者、被扶養者に育児参考書「赤ちゃん和妈妈」を毎月一年間自宅に送付する。初回には「お医者さんにかかるまで」も送付。通年。	申請が無くても異動届、出産一時金申請に基づき、健保から自動的に郵送している。	特になし。	5
	2	健康づくりマラソン	取り組む事業所の偏りがあるため、参加者の増を促す。	全て	男女	18～65	被保険者	32	健康強調月に、健康づくりに関する取り組みを43日間継続実施し、達成した参加者には賞品を贈呈する。	毎年定例的に実施。	参加者に偏りがある。	2
	5	被扶養者向け情報提供	健康情報を被扶養者あてに発信して、疾病予防に役立てる。	全て	男女	0～74	被保険者、被扶養者	294	年4回、コラボヘルスの一環として事業主保健師に依頼し、健保送付の季刊誌内に健康情報のチラシを同封する。 4月、8月、10月、1月	季刊誌発行のタイミングに合わせて同時に事業主からの健康情報も発信できる。	チラシを手に取り内容を見ているか今後検証が必要。	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者			事業費(千円)	振り返り			注2) 評価	
				対象事業所	性別	年齢		対象者	実施状況・時期	成功・推進要因		課題及び阻害要因
	5	被扶養者向けイベント	家族向けのイベントを開催し、健康情報を提供して、疾病予防を図る。	全て	男女	0～74	加入者全員	1,879	コラボヘルスの一環として、事業主・グループ会社と共同で被扶養者参加型のイベントを企画した。コロナ禍を考慮し、招集型イベントではなく、ロゲイニングを実施した。実施時期11/19～12/18 134人参加	事業主・グループ会社と共同で企画・実施・運営することで、一体感を持って実施できる。	参加者数増加へ向けた、魅力的なイベントの企画。	2
疾病予防	3	人間ドック受診補助	健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療を目的にする。	全て	男女	18～74	被保険者,基準該当者	37,958	契約医療機関26か所で一泊・日帰り人間ドックを実施。(任意)受診費用の一部または全額を健保で負担。節目年齢500人 日帰りドック207人 一泊ドック15人	節目年齢の日帰りドックは全額健保が補助。	節目年齢以外の受診向上。	3
	3	C型肝炎ウイルス検査	40歳以上の被保険者の肝炎の早期発見	全て	男女	40～74	被保険者	0	事業主診療所で検査を実施する。(任意)	事業主診療所で実施可能。全額健保負担。	例年、受診者は少ない。 ※人間ドック受診者はコースに含まれている場合あり	1
	3	胃集団検診	胃疾患の早期発見・早期治療	全て	男女	18～74	被保険者	14,933	検診車による巡回検診を腹部エコー検査と併せて実施する。6～8月。	事業主に業務委託。一部就業時間内の受診可能。	希望者募集方法を変更したことが要因か不明だが、受診者数大幅減。受診促進、啓もう等必要。	2
	3	腹部エコー検査	内臓疾患の早期発見・早期治療	全て	男女	40～74	被保険者,基準該当者	6,964	胃集団検診と同時に超音波による検査を実施する。6～8月。 1,666人受診	事業主に業務委託。一部就業時間内受診可能。	希望者募集方法を変更したことが要因か不明だが、受診者数大幅減。受診促進、啓もう等必要。	3
	3	大腸がん検診	大腸疾患の早期発見・早期治療	全て	男女	18～74	被保険者	10,590	大腸がん検査キット(便潜血検査)を契約医療機関に郵送。(任意)10月実施。 精密検査は11～3月。 一次検査3,764人 二次検査102人	各所属に希望者検査キット配付。 精密検査費も健保負担。	受診率向上。	4
	3	乳がん・子宮がん検診	婦人科疾患の早期発見・早期治療	全て	女性	18～74	被保険者	8,585	乳がん(エコー・マンモグラフィ)、子宮がん検診を契約医療機関で実施。(任意)11～2月実施。 子宮がん792人、53.2% 乳がん886人、59.5%	6医療機関にて実施。	受診率向上。 受診者の取りまとめに時間を要す。	4
	3	インフルエンザ予防接種	インフルエンザ発症者の抑制	全て	男女	18～74	被保険者	30,449	事業主実施の秋の定期健康診断時に同時実施。(任意)11月。 9,227人	事業主実施の秋の定期健康診断時に同時実施。一部就業時間内受診可能。	特になし。	4
	3	家族健康診断	任意継続被保険者、被扶養者の健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療を目的にする。	全て	男女	20～74	被扶養者,任意継続者	81,046	特定健康診査を兼ね、委託機関を通じて医療機関を受診する。(任意)6～11月。 DM1,185人分送付 40歳以下受診者683人 受診率59.6%	健診代行業者に業務委託。 数多い提携医療機関の中から自宅近くの医療機関を予約可能。 一部オプションを除く全額を健保負担。	無関心層の受診率向上。	4
	6	電話健康相談	医療情報の提供	全て	男女	0～74	加入者全員	1,089	365日、24時間対応の電話健康相談。 利用者延べ187人	365日、24時間対応可能。	利用者数が少ない。	4
体育奨励	8	運動会費用補助	健康づくりの取り組みに対する支援	全て	男女	0～74	加入者全員	1,100	労働組合主催の運動会 10月開催。 参加者3,661人	恒例行事	コロナ禍や開催場所変更により、参加者数減少。	3
	8	駅伝大会費用補助	健康づくりの取り組みに対する支援	全て	男女	18～65	被保険者	0	例年11月実施。 コロナ感染予防により中止	恒例行事	特になし	-
	8	野球大会費用補助	健康づくりの取り組みに対する支援	全て	男性	18～65	-	-	-	-	-	-

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	8	職場体育助成金	各職場のスポーツレクリエーションの取り組みに対する支援	全て	男女	18～65	被保険者	295	年度内に2回まで、職場人員過半数以上の参加者がある職場レクリエーション実施に、1人1000円の助成金支給。コロナ禍でレクリエーション控え。5職場のみ利用あり。	講習会等で全所属にアナウンス。	コロナ禍で利用者減少。	1

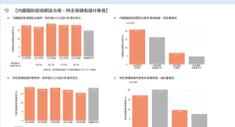
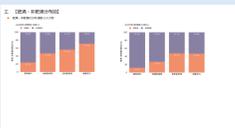
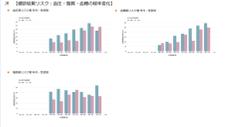
注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

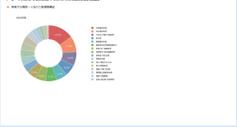
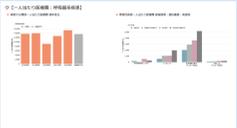
注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

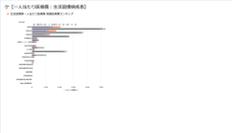
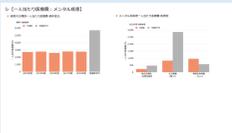
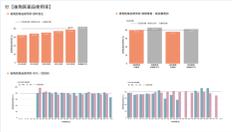
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
雇入時健診	【目的】 適正就業配置 【概要】 法定に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	法定に基づくため必ず	—	無
定期健康診断	【目的】 健康管理・就業上の措置の必要性有無確認 【概要】 法定に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	春秋年2回 春は40歳以上、特定健診を兼ねる	法定に基づくため必ず	—	有
健康診断事後措置	【目的】 健康状態に応じ保健指導、検査、治療、就労判定等必要な措置を行う 【概要】 法定に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	定健後	法定に基づくため必ず	—	無
長時間労働者への産業医面談	【目的】 心身への影響把握、改善必要ある場合関係部署への勧告 【概要】 法定に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	法定に基づくため必ず	面談必要性について該当者本人の理解	無
産業医職場巡視	【目的】 職場の安全衛生に関する教育 【概要】 法定に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	法定に基づくため必ず	職場多数のため他の産業医業務との調整	無
職場復帰支援	【目的】 退職者のスムーズな復帰 【概要】 社内規則に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	産業医を中心とした関係部署との連携	個々の状況に応じた迅速適切な対応	無
健康相談	【目的】 心身の不調者への早期対応 【概要】 面接・電話・メールでの対応	被保険者	男女	18 ～ 65	健康支援センター及び総合生活相談室により随時	窓口の周知	早期に相談することの重要性	無
健康・衛生教育	【目的】 階層及び職種、職場に応じ必要な教育 【概要】 法、社内規則、研修計画等に基づく	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	年間計画に基づく関係部署との調整	—	無
肥満解消チャレンジ	【目的】 健康リスクの減少 【概要】 BMI 24以上、職場3名以上での参加	被保険者	男女	18 ～ 65	希望者に対し随時	経営計画の取組の1つ	肥満による健康リスク理解	無
禁煙支援	【目的】 健康リスクの減少 【概要】 健康診断問診票により喫煙状況を把握し、各職場へフィードバックし禁煙を促す	被保険者	男女	20 ～ 65	希望者に対し、健康支援センターにおいて禁煙～医療随時実施。また、希望職場に対し、禁煙教育等随時実施。	窓口の周知	喫煙による健康リスク理解	無
歯磨き指導	【目的】 健康リスクの減少 【概要】 希望者、希望職場に実施	被保険者	男女	18 ～ 65	健康支援センター歯科により随時	窓口の周知	虫歯、歯周病による健康リスク理解	無
健康関連情報提供	【目的】 健康管理意識の高揚 【概要】 社内報、ホームページ、ポスター等	被保険者	男女	18 ～ 65	随時	継続	より効果的なアプローチ	無
健康増進ウォーキングイベント	健康増進を目的とし「歩く」ことを習慣づける。職場対抗等で上位チームには賞品授与するインセンティブを設けている。	被保険者	男女	18 ～ 65	年2回（5月、11月実施）	スマートフォンに専用アプリをダウンロードし歩数をカウントできる。職場対抗等にすることで、職場のコミュニケーションも図れる。	利用者数拡大。（参加常連者以外への参加促進）	無

STEP 1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		ア 【特定健診受診率】	特定健診分析	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率は毎年80%以上で、2022年度は83.8%。単一健保目標より低い。 ・2022年度の受診率を被保険者・被扶養者別にみると、被保険者は92.6%で単一健保目標より高い。被扶養者の実施率は62.7%で他健保平均よりは高い。 ・2022年度の被保険者の受診率を男女別にみると、65～74歳代男性と40～44歳代女性が単一健保目標より低い。 ・被扶養者では、45～49歳代・60～64歳代男性を除き、単一健保目標より低い。
イ		イ 【特定保健指導実施率】	特定保健指導分析	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率は40%を超えていて、2022年度は44.1%である。単一健保目標よりは低い。 ・2022年度の被保険者の実施率は45.6%で、保険者全体目標・他健保平均よりは高いが、単一健保目標より低い。被扶養者の実施率は34.4%である。 ・初回面談に参加した者は、90%以上終了している。実施率を上げるためには、保健指導利用者を増やす必要がある。
ウ		ウ 【内臓脂肪症候群該当者・特定保健指導対象者】	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪症候群該当者率は18%前後で、2022年度は17.9%である。他健保平均より高い。 ・被保険者の該当者率は21.0%、被扶養の該当者率は6.8%で、いずれも他健保平均より高い。 ・特定保健指導対象者率は減少傾向にあり、2022年度は15.5%である。他健保平均より低い。 ・被保険者の対象者率は17.2%、被扶養者の対象者率は9.6%で、被扶養者は他健保平均より高い。
エ		エ 【肥満・非肥満分布図】	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者40歳以上では、受診勧奨域・服薬投与者の肥満率が50%以上であり、特に服薬投与者の肥満率が71.1%とが高い。非肥満も一定数いる。 ・被扶養者40歳以上では、非肥満が多く、受診勧奨域・服薬投与者では、非肥満率が50%以上である。
オ		オ 【健診結果リスク：血圧・脂質・血糖の経年変化】 【受診状況】	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧高リスク者：被保険者の基準値を超えている者の割合は、年齢とともに増加傾向にあり、男女ともに65～69歳代が最も多い。 ・血糖高リスク者：被保険者の基準値を超えている者の割合は、年齢とともに増加傾向にあり、男女ともに70～74歳代が最も多い。 ・脂質高リスク者：被保険者の基準値を超えている者の割合は、男性は70～74歳代、女性は55～59歳代が最も多い。

力		<p>力 【リスクシュミレーション：脳卒中・心疾患】 【糖尿病】 【脂質異常症】</p>	<p>健康リスク分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧が160≦収縮期血圧または100≦拡張期血圧で、服薬なしが200人いる。服薬ありの者で、血圧が160≦収縮期血圧、または100≦拡張期血圧のコントロール不良者は95人である。 ・HbA1cが7.0以上で、服薬なしが68人いる。服薬ありの者で、HbA1c7.0以上のコントロール不良者は229人である。 ・LDLコレステロールが180以上で、服薬なしが164人いる。服薬ありの者で、LDLコレステロールが180以上のコントロール不良者は16人である。
キ		<p>キ 【一人当たり医療費：疾病大分類医療費構造】 【疾病大分類医療費】 【疾病中分類上位15疾患】</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の疾病大分類別一人当たり医療費では、1位：呼吸器系疾患 2位：消化器系疾患 3位：内分泌・栄養・代謝疾患 4位：新生物 5位：循環器系疾患 ・呼吸器系疾患は、他健保平均に比べて一人当たり医療費が高い。他健保平均より高い疾患は、他に9位の「感染症・寄生虫症」、11位の「他に分類されないもの」、17位の「周産期発生病態」、20位の「先天奇形変形・染色体異常」である。 ・疾病中分類別一人当たり医療費の中で、大分類で上位にあったもの <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・急性上気道感染症 : 6位 ・アレルギー性鼻炎 : 8位 ・その他の呼吸器系疾患 : 13位 ・急性気管支炎・細気管支炎 : 14位 消化器系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の消化器系疾患 : 2位 内分泌・栄養・代謝疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌・栄養・代謝疾患 : 5位 ・糖尿病 : 12位 新生物 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の悪性新生物 : 15位 循環器系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の心疾患 : 11位
ク		<p>ク 【一人当たり医療費：呼吸器系疾患】</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系疾患の一人当たり医療費は、2020年度以降増加し、2022年度は他健保平均を上回っている。 ・被保険者・被扶養者ともに、血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費が最も高いが、他健保平均よりは低い。次がインフルエンザである。 ・被保険者の血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費は、50～54歳代が最も高い。 ・被扶養者の血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費は、0～9歳代が高い。 ・被保険者のインフルエンザの一人当たり医療費は、年齢による差はあまりないが、60～64歳代以降減少している。 ・被扶養者のインフルエンザの一人当たり医療費は、0～4歳代が最も高く、年齢とともに減少している。

ケ		ケ【一人当たり医療費：生活習慣病疾患】	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病一人当たり医療費では 1位：糖尿病 2位：高血圧症 3位：高脂血症 4位：高尿酸血症 5位：（再掲）インスリン療法 6位：虚血性疾患 肝機能障害は、他健保平均より高い ・糖尿病の一人当たり医療費は、年度により差があるが、2022年度は2021年度より減少している。入院外の医療費が多い。 ・インスリン療法の一人当たり医療費は減少していたが、2022年度は増加した。入院外の医療費が多い。 ・高血圧症の一人当たり医療費は、2022年度は減少している。入院外の医療費が多い。 ・虚血性疾患の一人当たり医療費は、2020年度以降減少している。入院外の医療費が多い。 ・高脂血症の一人当たり医療費は、年度により差がある。入院外の医療費が多い。 ・高尿酸血症の一人当たり医療費は、2022年度は減少している。入院外の医療費が多い。
コ		コ【一人当たり医療費：新生物】	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・新生物の一人当たり医療費は、年度により差はなく、他健保平均より低い。 ・男性は大腸がん、女性は乳がんの一人当たり医療費が最も高い。全てのがんで、他健保平均より低い。
サ		サ【一人当たり医療費：婦人科疾患】	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人科系疾患の一人当たり医療費では、被保険者は「乳房・女性性器疾患」が最も高い。これは疾病大分類の腎尿路生殖器系疾患に該当する。また、「他の妊娠、分娩・産じょく」「乳房の悪性新生物」「月経・閉経周辺期障害」等の課題もある。女性従業員が増加し現場への配属も行われるようになり、働き方が多様化している。このような状況の中、女性の健康課題への対策が必要である。
シ		シ【一人当たり医療費：メンタル疾患】	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> ・精神・行動障害の一人当たり医療費は、年度により差はない。他健保平均より低い。 ・被保険者では、神経症性障害、ストレスの一人当たり医療費が最も高く、他健保平均より高い。
ス		ス【喫煙率】	健康リスク分析	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙率は、減少傾向にあり、2022年度は24.7%であるが、自健保目標・国実施目標・他健保平均より高い。 ・女性は国実施目標・他健保平均より低い、男性は高い。
セ		セ【後発医薬品使用率】	後発医薬品分析	<ul style="list-style-type: none"> ・後発医薬品使用率は、年々増加しているが、国実施目標より低い。 ・被保険者の後発医薬品使用率は、国実施目標より高い。 ・被保険者では、女性より男性の方が、国実施目標に達している年代が多い。 ・被扶養者では、国実施目標に達しているのは、男性の25～29歳代・55～69歳代、女性の35～39歳代・45～49歳代である。

ソ



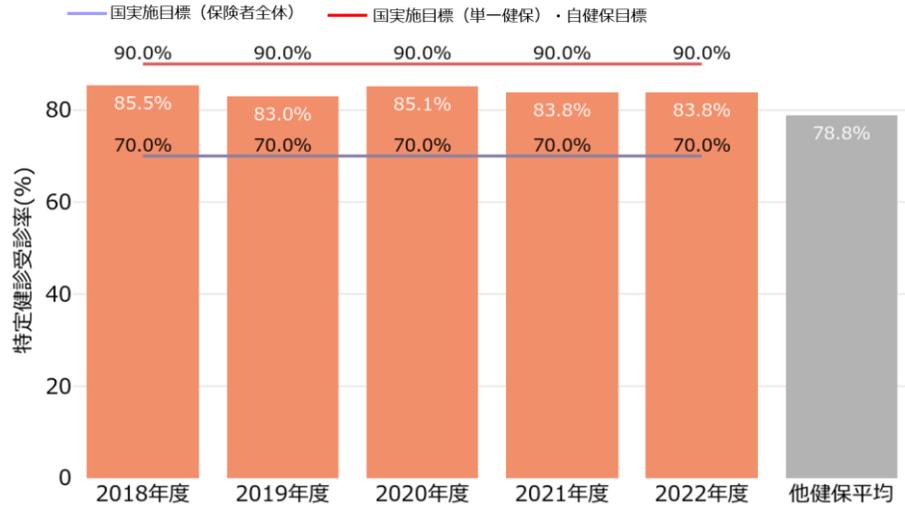
ソ 【前期高齢者の医療費】

医療費・患者数分析

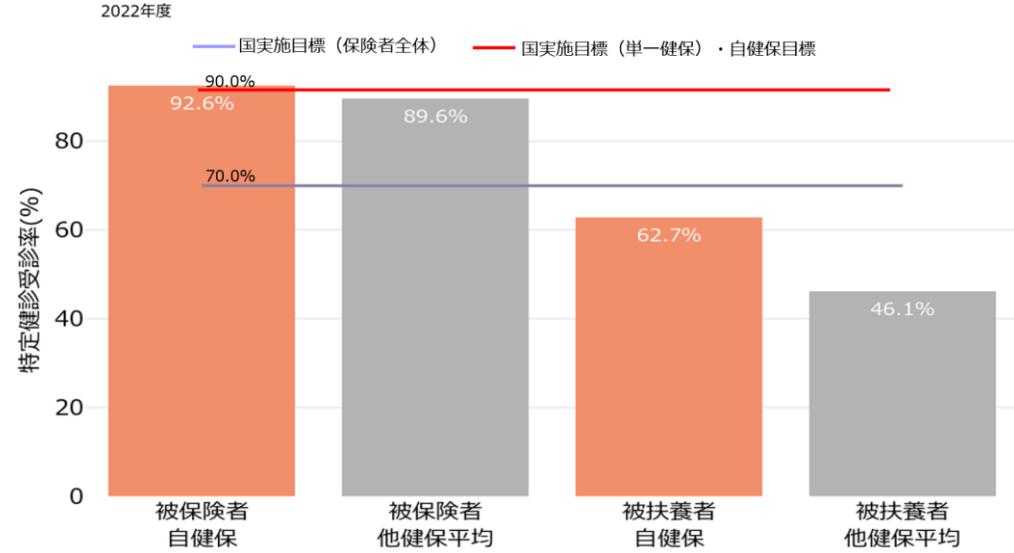
- ・年齢階層別一人当たり医療費は、0～4歳代が最も高く、60～69歳代と続いている。25～29歳代から、年齢とともに増加している。
- ・前期高齢者の一人当たり医療費は、2019年度以降減少している。前期高齢者医療費の年平均成長率は-2.4%。

ア 【特定健診受診率】

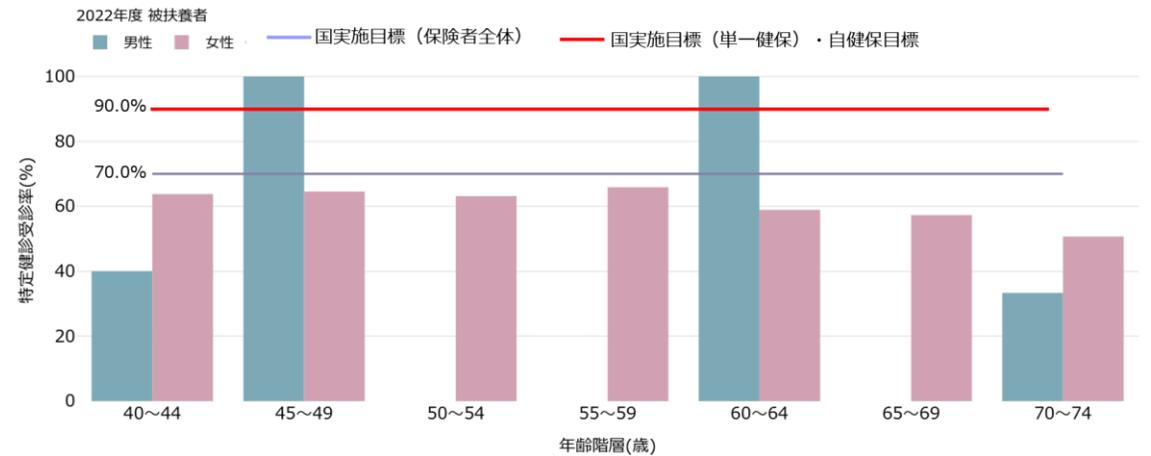
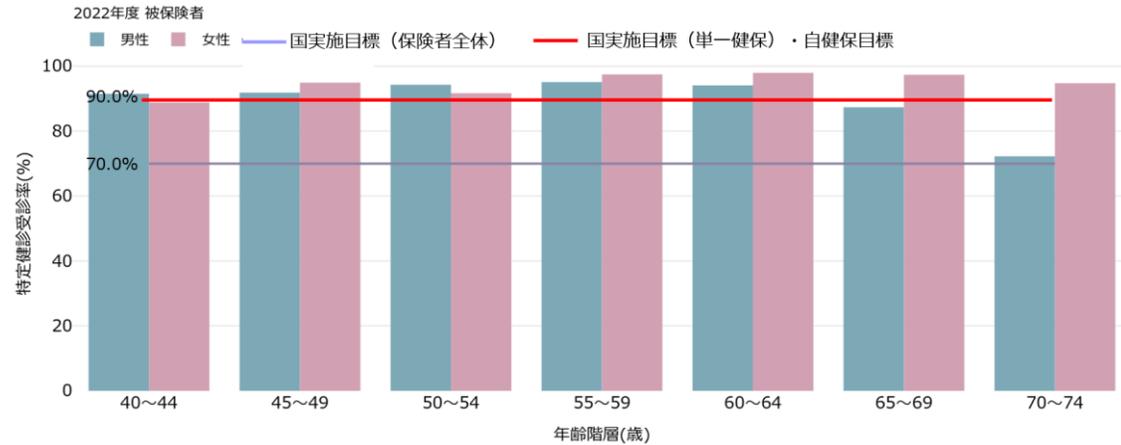
■ 特定健診受診率 経年変化



■ 特定健診受診率 被保険者・被扶養者別



■ 特定健診受診率 年代・性別別

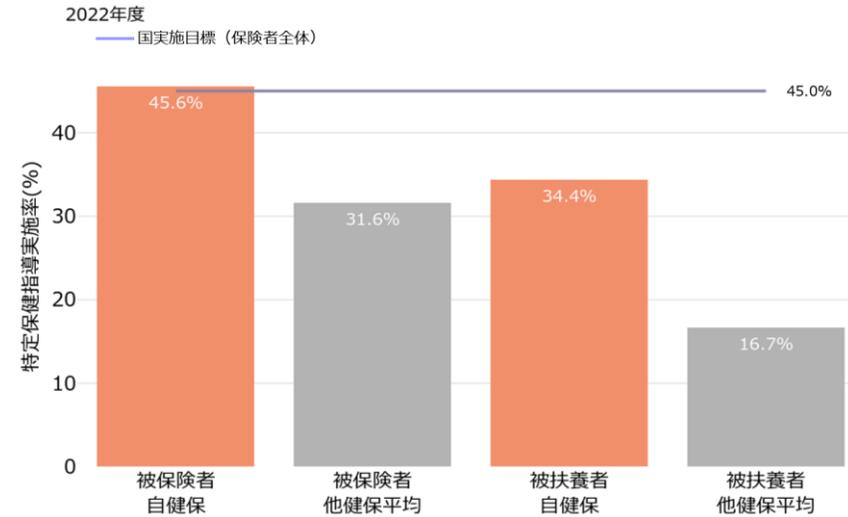


イ 【特定保健指導実施率】

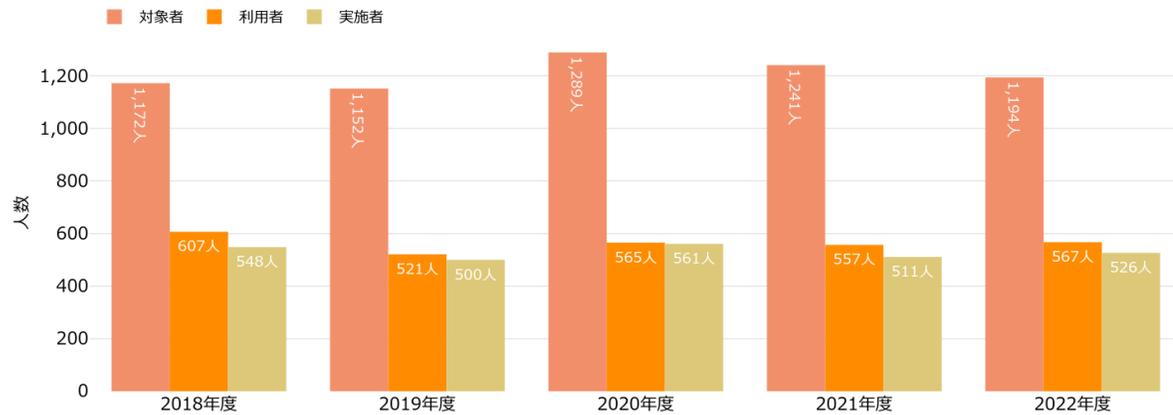
■ 特定保健指導実施率 経年変化



■ 特定保健指導実施率 被保険者・被扶養者別

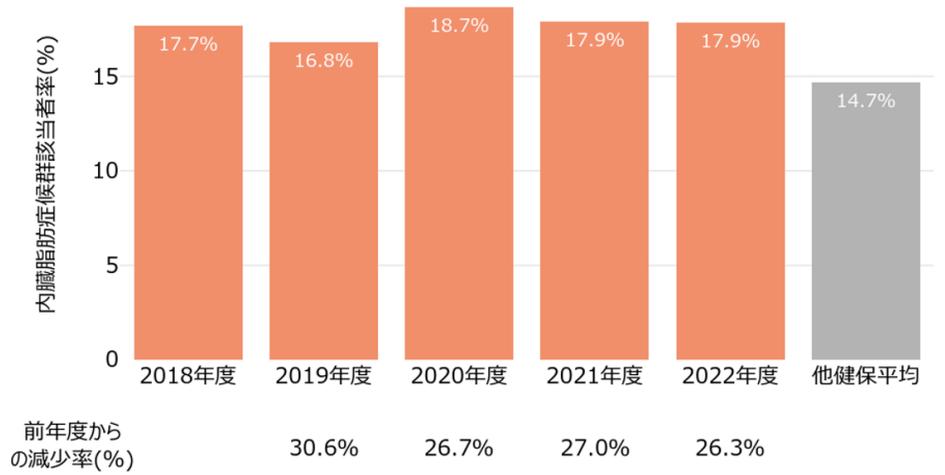


■ 特定保健指導対象者内訳 対象・利用・実施人数



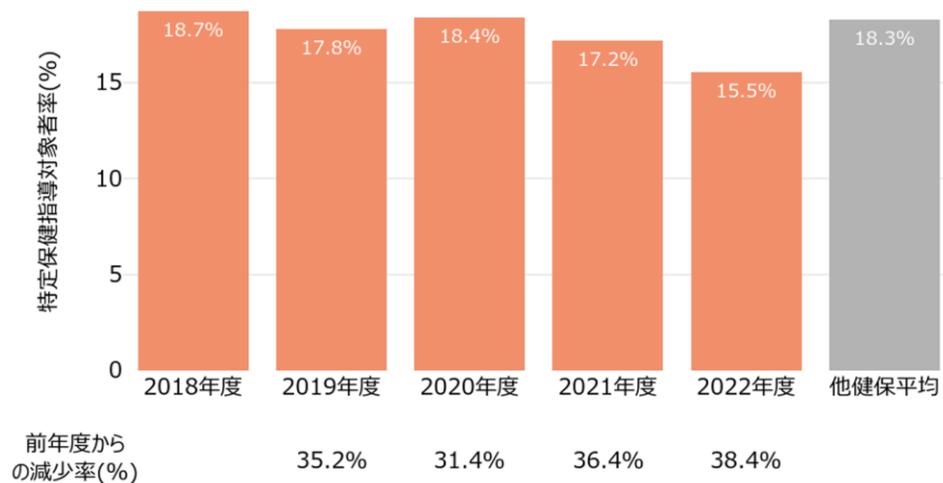
ウ 【内臓脂肪症候群該当者・特定保健指導対象者】

■ 内臓脂肪症候群該当者率・前年度からの減少率 経年変化



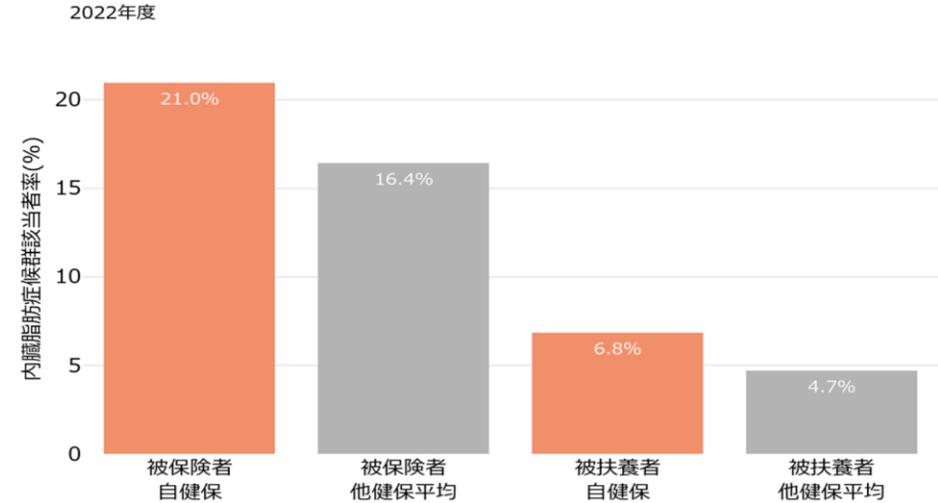
※減少率：前年度該当者のうち翌年度該当でなくなった割合

■ 特定保健指導対象者率・前年度からの減少率 経年変化

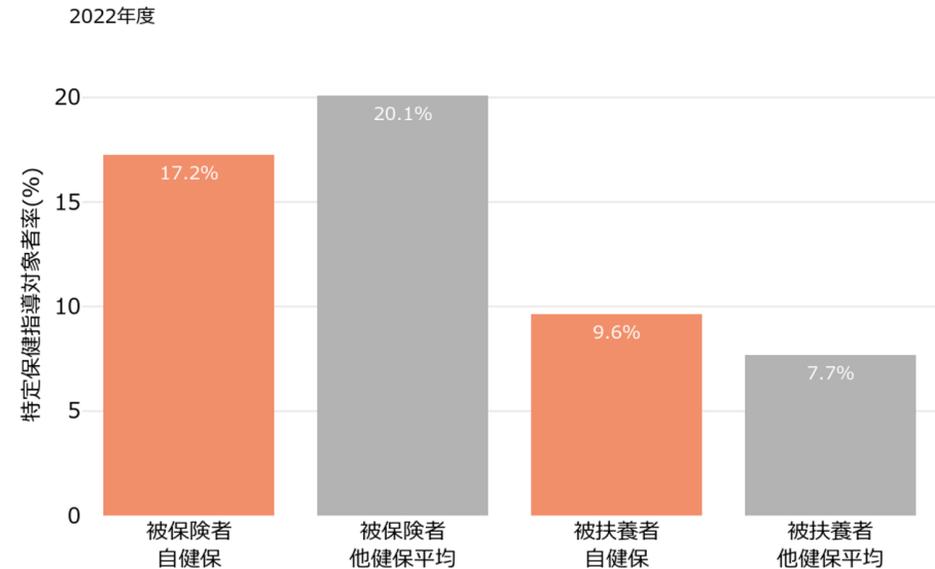


※減少率：前年度該当者のうち翌年度該当でなくなった割合

■ 内臓脂肪症候群該当者率 被保険者・被扶養者別

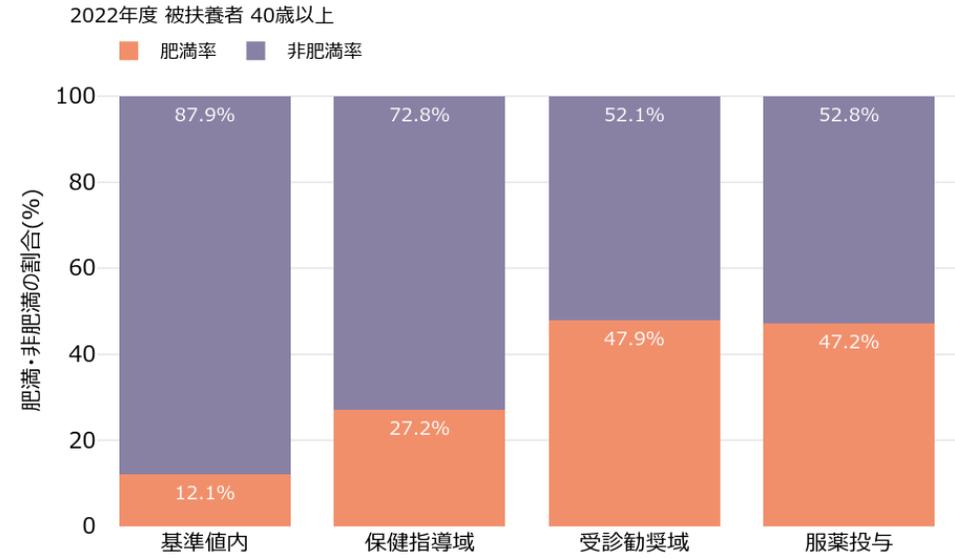
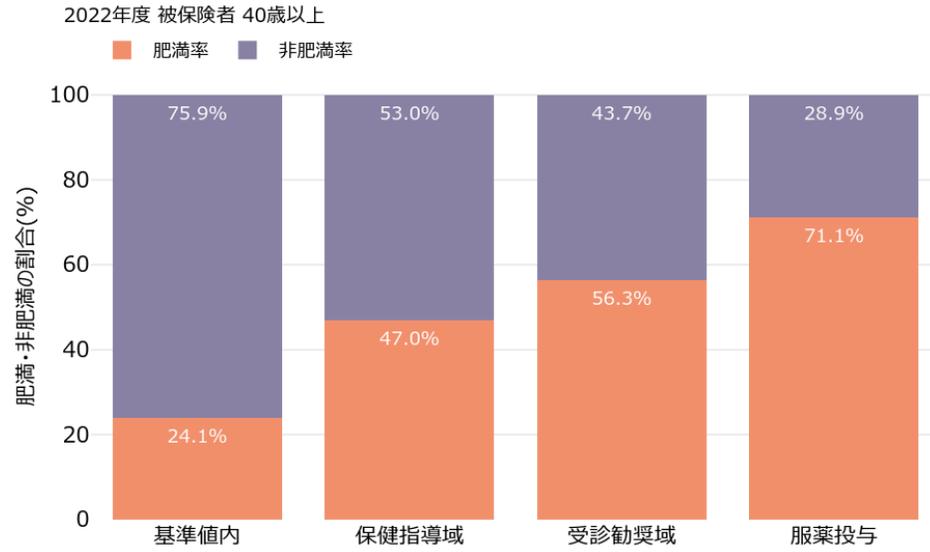


■ 特定保健指導対象者率 被保険者・被扶養者別



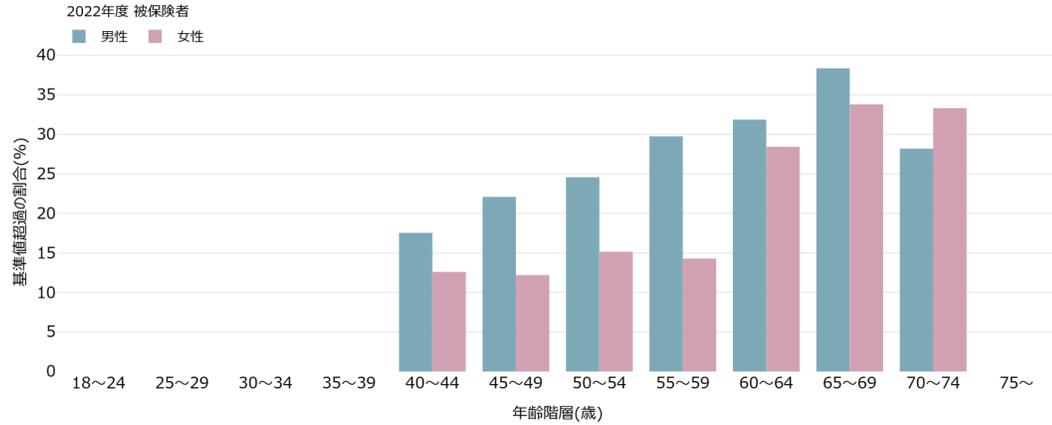
工 【肥満・非肥満分布図】

■ 肥満・非肥満の分布 健診リスク別

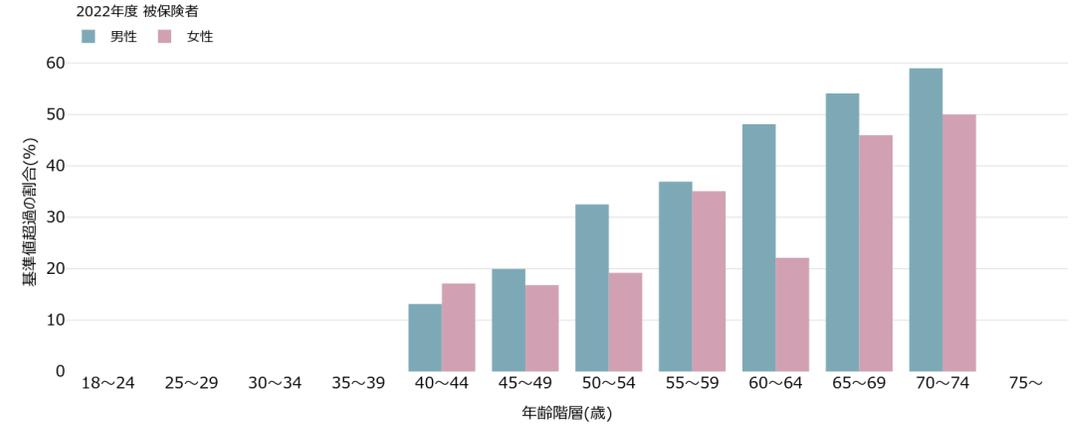


オ 【健診結果リスク：血圧・脂質・血糖の経年変化】

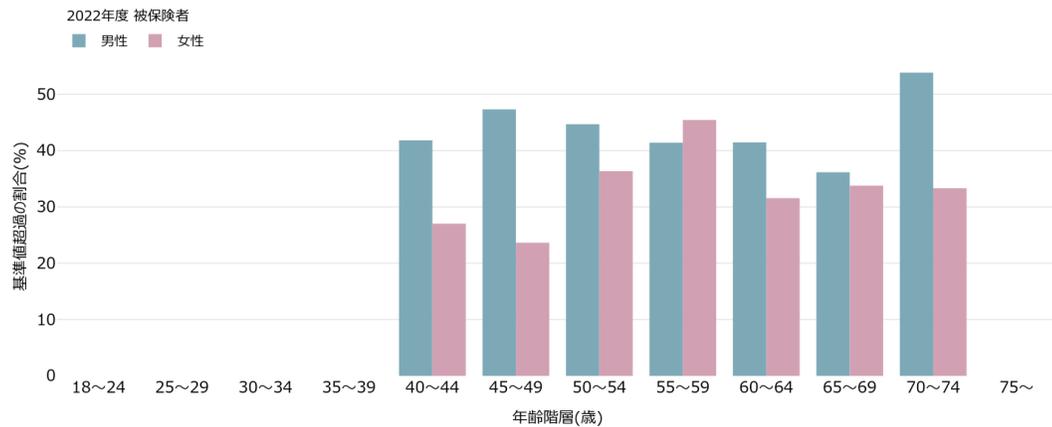
■ 血圧高リスク者 年代・性別別



■ 血糖高リスク者 年代・性別別

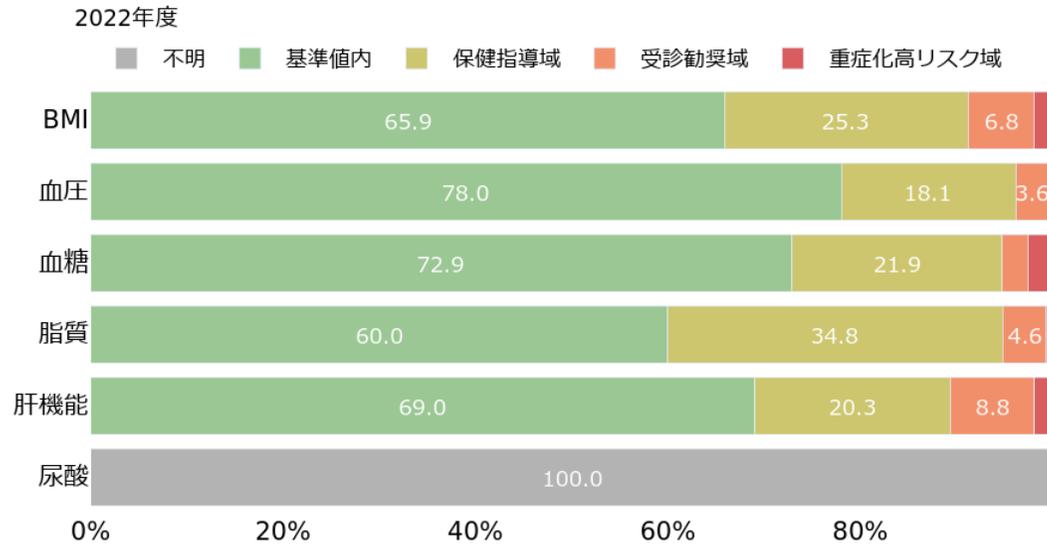


■ 脂質高リスク者 年代・性別別



才 【健診結果リスク割合・受診状況】

■ 健診結果リスク割合



■ 健診結果リスク実数

	受診勧奨域の人数 (医療受診あり/なし)	重症化高リスク域の人数 (医療受診あり/なし)
BMI	526人	150人
血圧	275(84/191)人	20(11/9)人
血糖	206(128/78)人	197(150/47)人
脂質	352(89/263)人	48(13/35)人
肝機能	673(52/621)人	144(13/131)人
尿酸	0(0/0)人	0(0/0)人

カ 【リスクシュミレーション：脳卒中・心疾患】

■ 脳卒中・心疾患リスクシミュレーション

血圧 測定実施者数 7,681人			
	高血圧治療 の服薬あり 1,715人 (22.3%)	高血圧治療 の服薬なし 5,966人 (77.7%)	合計
SBP<130 ^ DBP< 85	671人 (39.1%)	3,767人 (63.1%)	4,438人 (57.8%)
130≤SBP<140 v 85≤DBP< 90	474人 (27.6%)	1,083人 (18.2%)	1,557人 (20.3%)
140≤SBP<160 v 90≤DBP<100	475人 (27.7%)	916人 (15.4%)	1,391人 (18.1%)
160≤SBP<180 v 100≤DBP<110	90人 (5.2%)	185人 (3.1%)	275人 (3.6%)
180≤SBP v 110≤DBP	5人 (0.3%)	15人 (0.3%)	20人 (0.3%)

カ 【リスクシュミレーション：糖尿病】

■ 糖尿病リスクシュミレーション

HbA1c 測定実施者数 7,681人			
	血糖の服薬あり 472人 (6.1%)	血糖の服薬なし 7,209人 (93.9%)	合計
HbA1c<5.5	16人 (3.4%)	4,649人 (64.5%)	4,665人 (60.7%)
5.6≤HbA1c<6.0	14人 (3.0%)	1,929人 (26.8%)	1,943人 (25.3%)
6.0≤HbA1c<6.5	81人 (17.2%)	469人 (6.5%)	550人 (7.2%)
6.5≤HbA1c<7.0	132人 (28.0%)	94人 (1.3%)	226人 (2.9%)
7.0≤HbA1c<8.0	189人 (40.0%)	55人 (0.8%)	244人 (3.2%)
8.0≤HbA1c	40人 (8.5%)	13人 (0.2%)	53人 (0.7%)

カ 【リスクシミュレーション：脂質異常症】

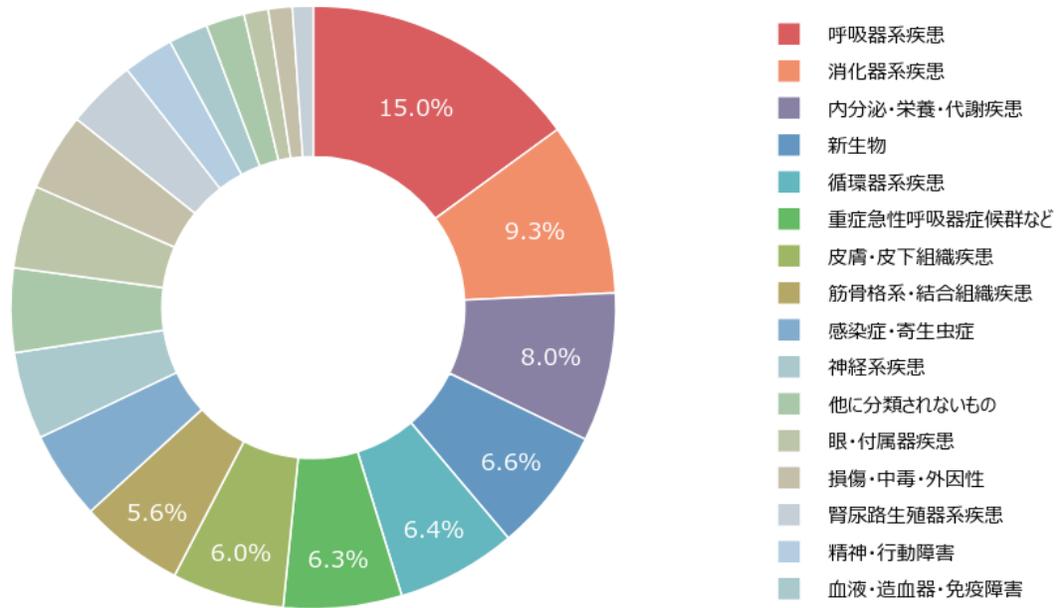
■ 脂質異常症リスクシミュレーション

	LDLコレステロール 測定実施者数 7,681人		
	脂質代謝異常治療 の服薬あり 1,060人 (13.8%)	脂質代謝異常治療 の服薬なし 6,621人 (86.2%)	合計
LDL<120	594人 (56.0%)	3,087人 (46.6%)	3,681人 (47.9%)
120≤LDL<140	255人 (24.1%)	1,722人 (26.0%)	1,977人 (25.7%)
140≤LDL<180	195人 (18.4%)	1,648人 (24.9%)	1,843人 (24.0%)
180≤LDL	16人 (1.5%)	164人 (2.5%)	180人 (2.3%)

キ【一人当たり医療費：疾病大分類医療費構造】

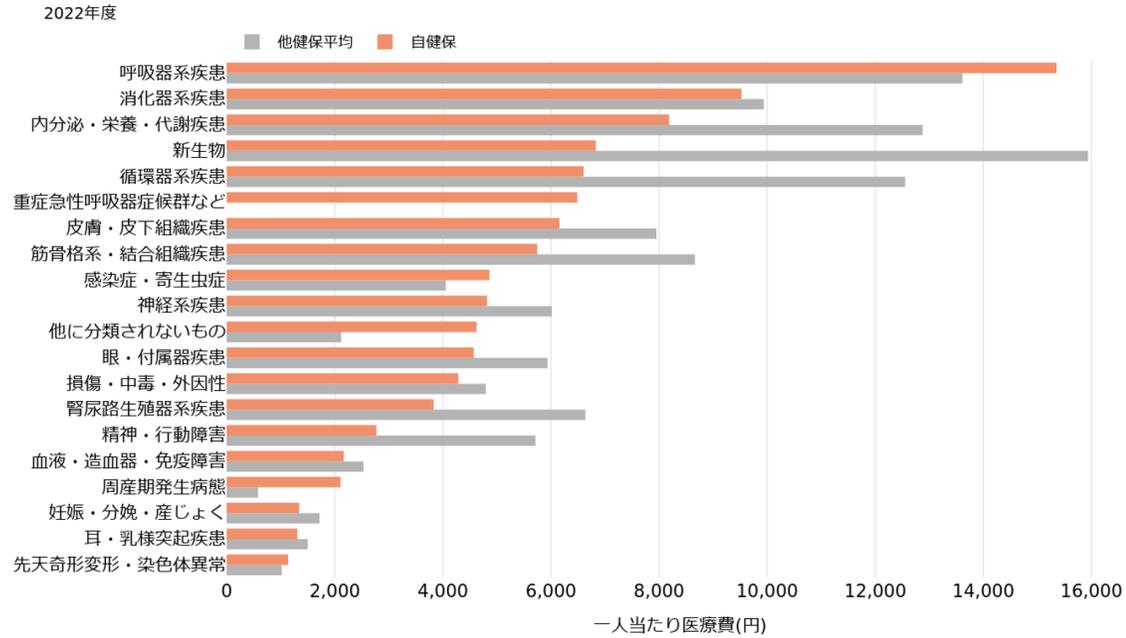
■ 疾病大分類別一人当たり医療費構造

2022年度



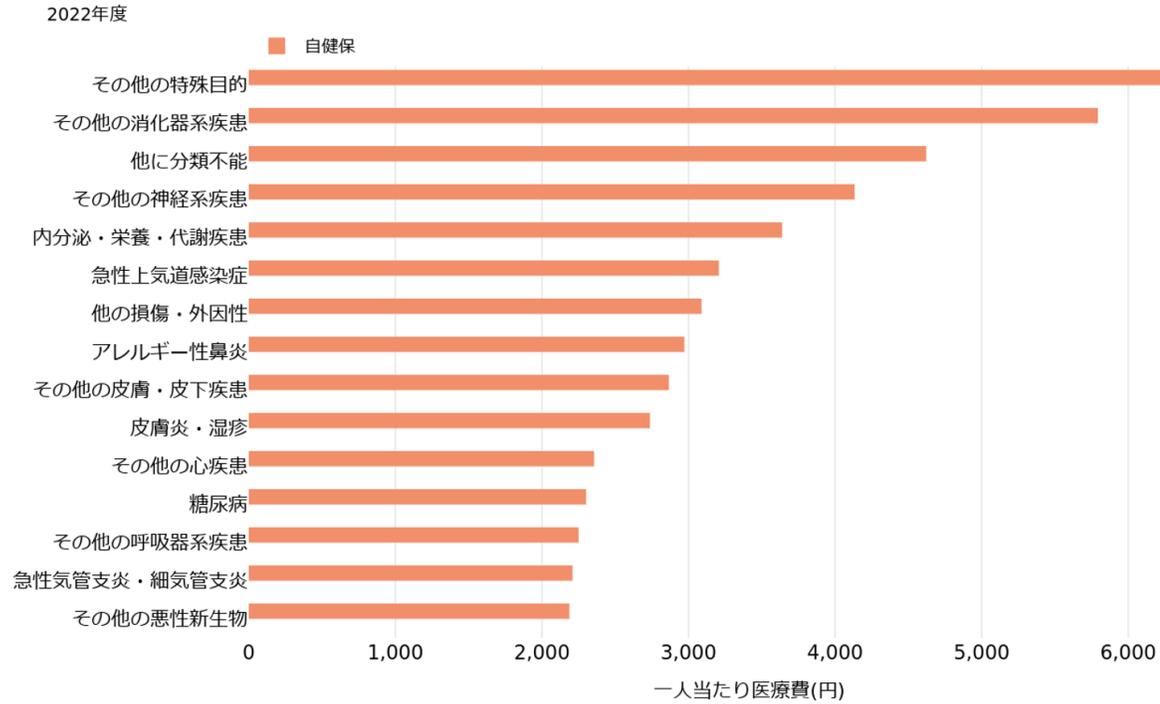
キ【一人当たり医療費：疾病大分類医療費】

■ 疾病大分類別一人当たり医療費 高額医療費ランキング



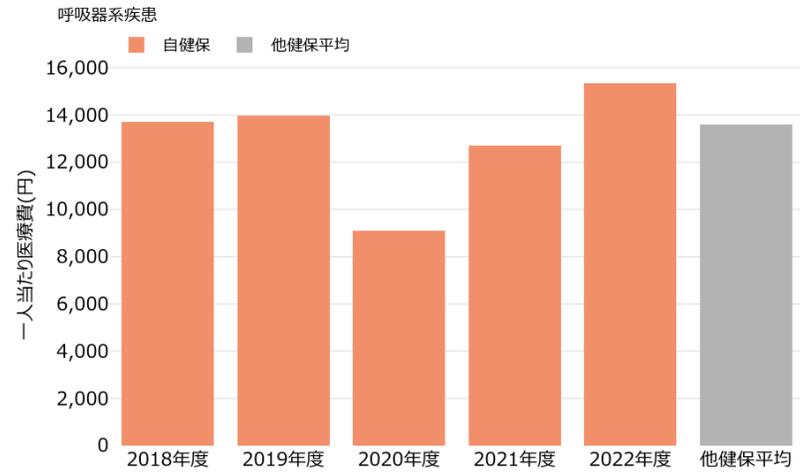
キ【一人当たり医療費：疾病中分類上位15疾患】

■ 疾病中分類別一人当たり医療費 上位15疾患ランキング

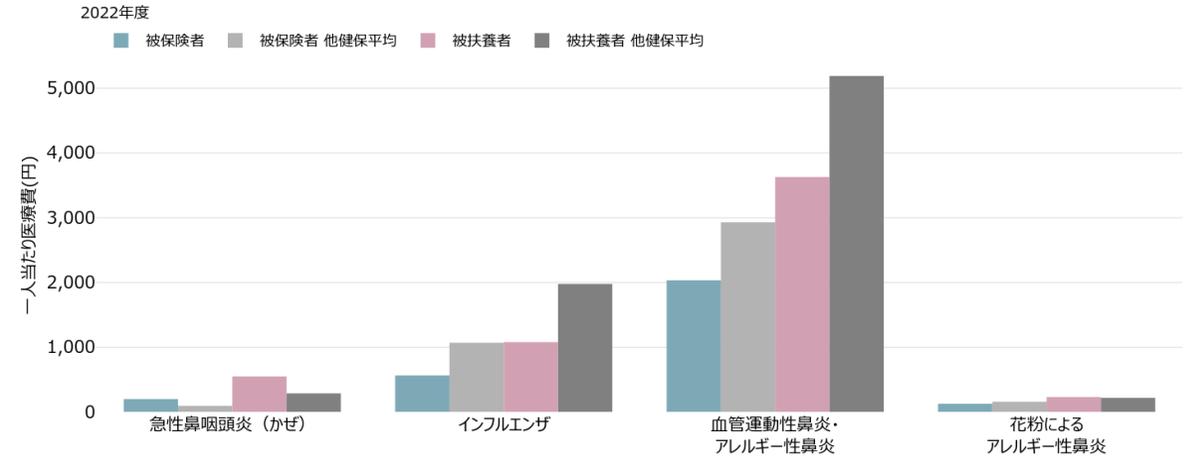


ク【一人当たり医療費：呼吸器系疾患】

■ 疾病大分類別一人当たり医療費 経年変化

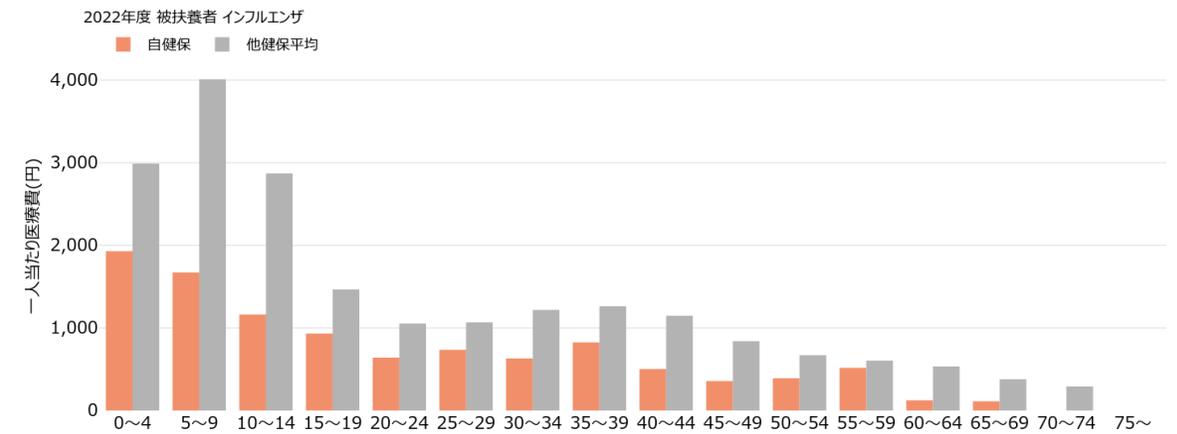
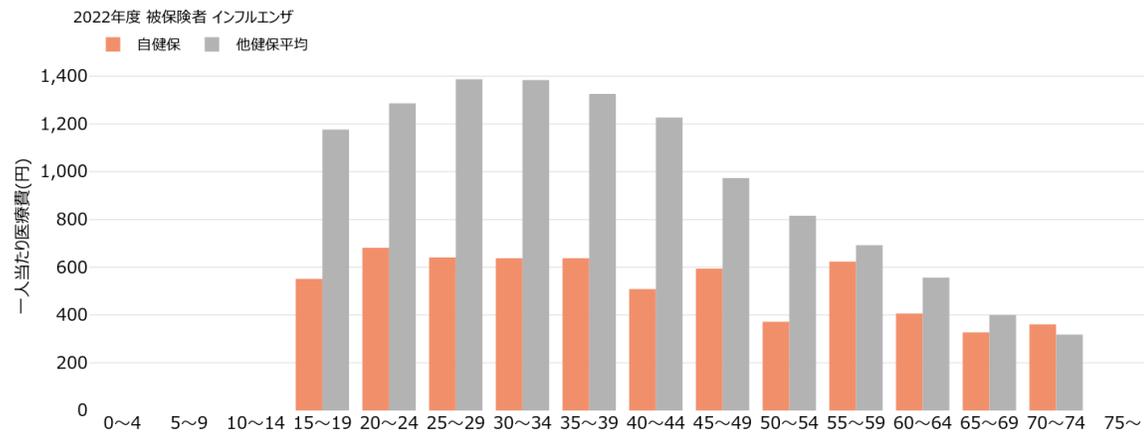
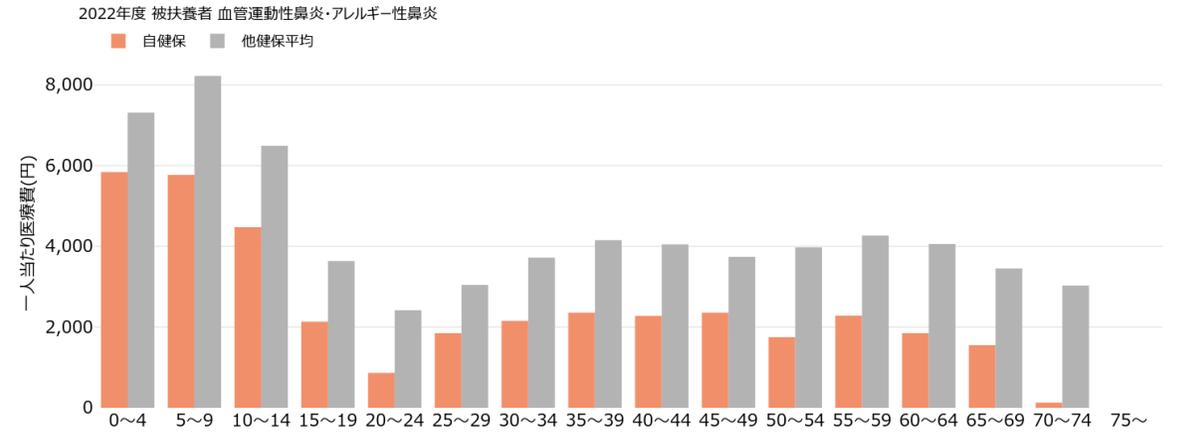
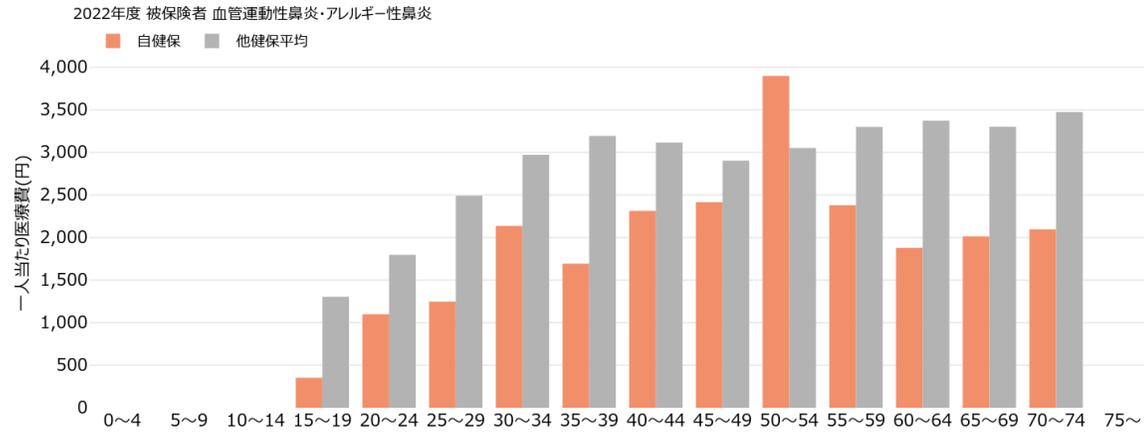


■ 季節性疾患一人当たり医療費 被保険者・被扶養者・疾患別



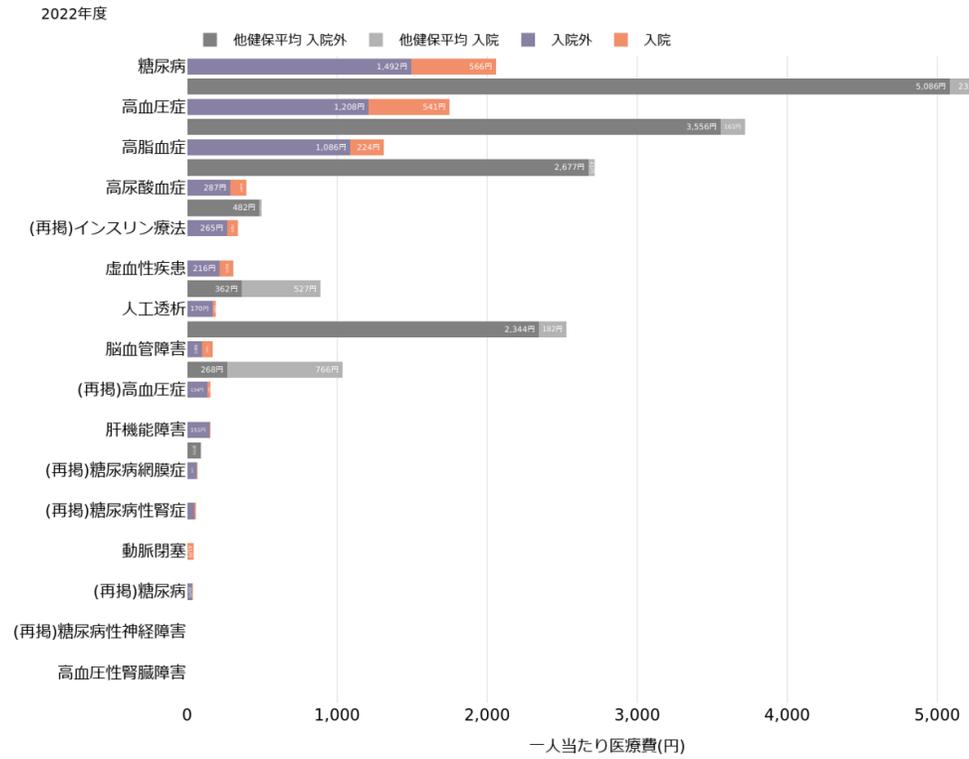
ク【一人当たり医療費：呼吸器系疾患】

■ 季節性疾患一人当たり医療費 年代別



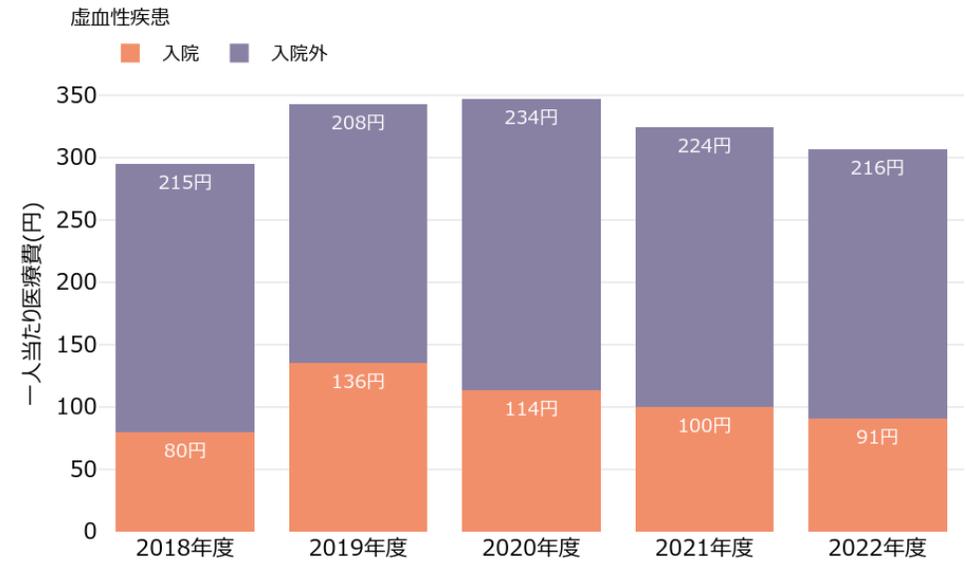
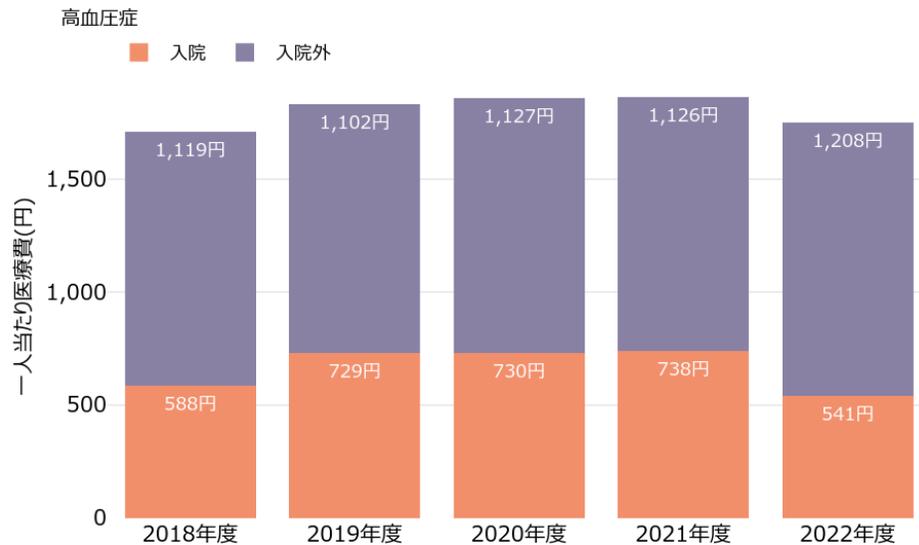
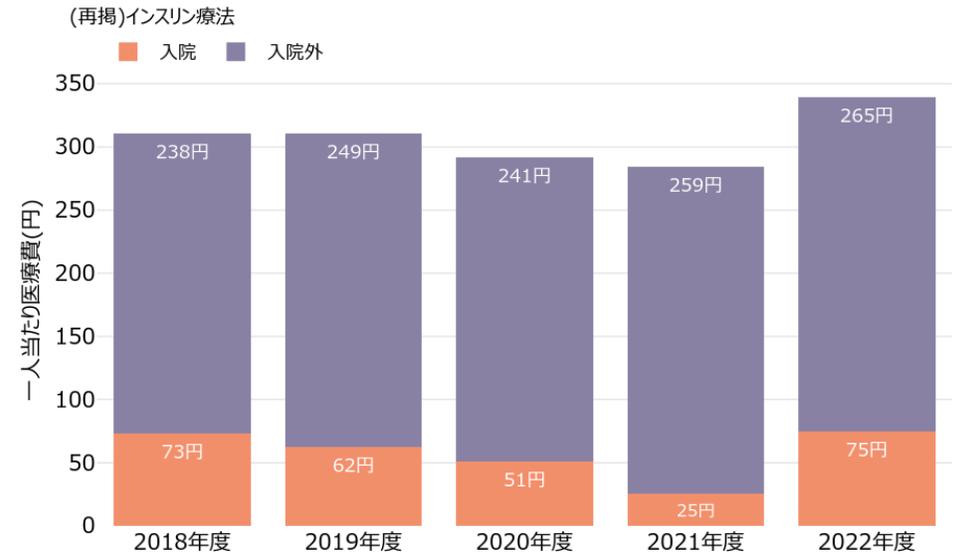
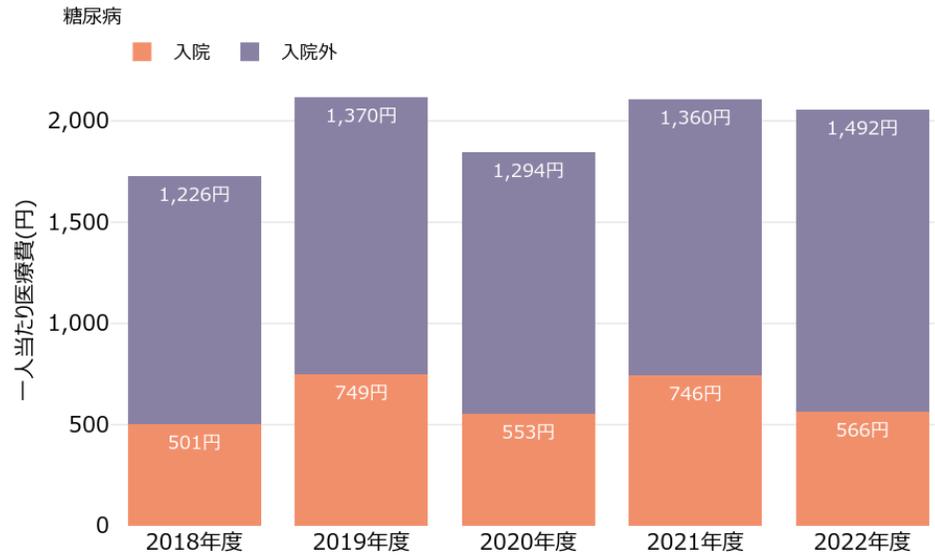
ケ【一人当たり医療費：生活習慣病疾患】

■ 生活習慣病一人当たり医療費 高額医療費ランキング



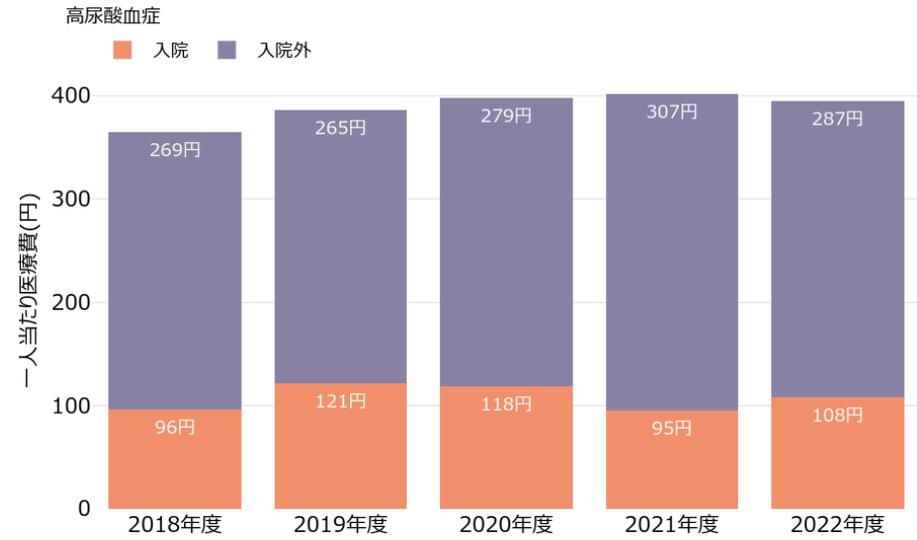
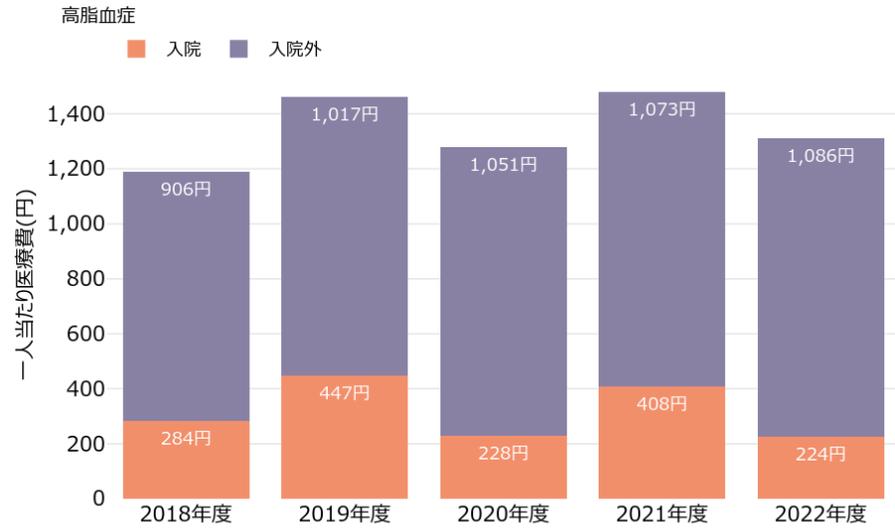
ケ【一人当たり医療費：生活習慣病疾患】

生活習慣病一人当たり医療費 経年変化



ケ【一人当たり医療費：生活習慣病疾患】

■ 生活習慣病一人当たり医療費 経年変化

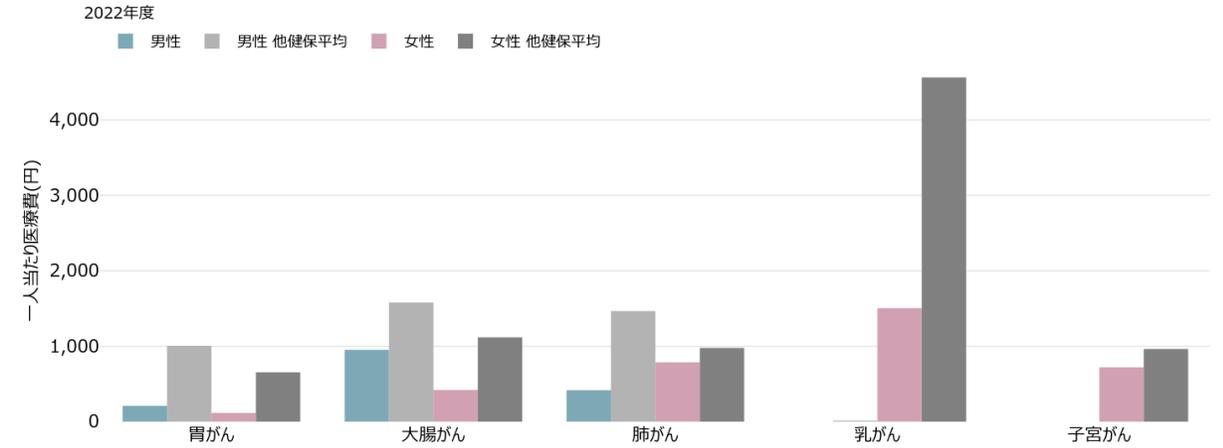


コ【一人当たり医療費：新生物】

■ 疾病大分類別一人当たり医療費 経年変化

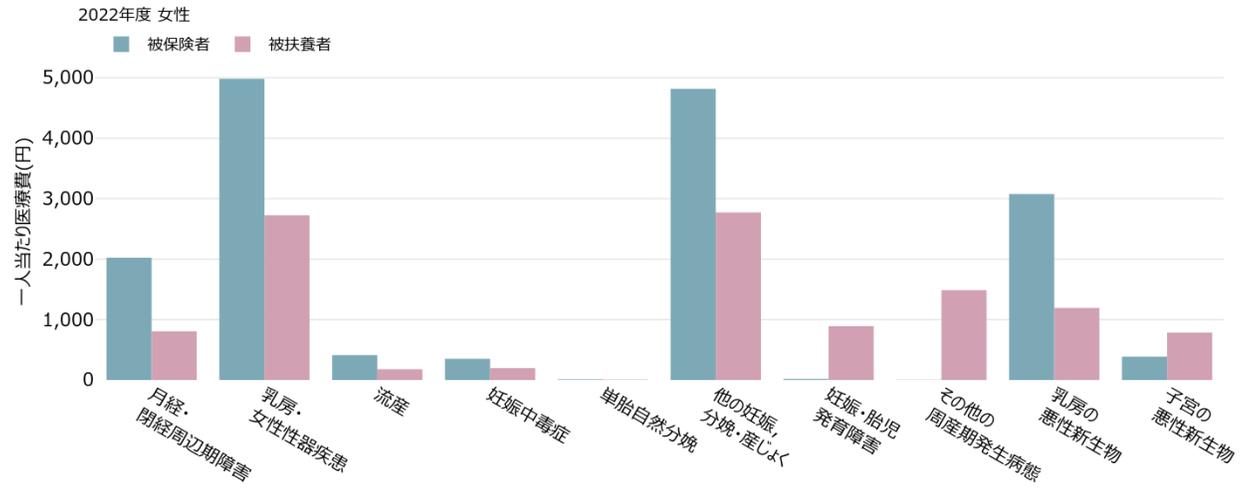


■ 新生物種類別一人当たり医療費 疾患別



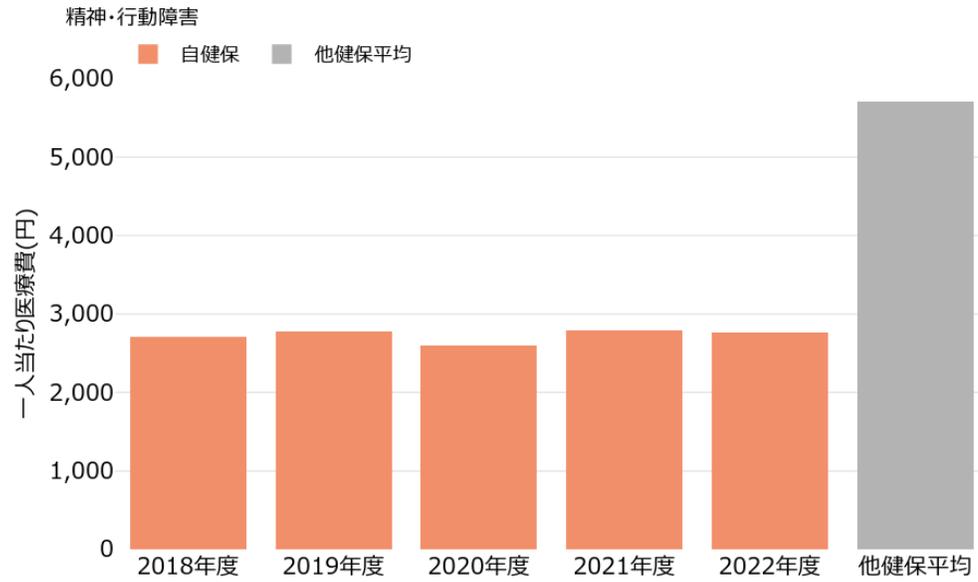
サ【一人当たり医療費：婦人科疾患】

■ 婦人科系疾患一人当たり医療費 被保険者・被扶養者・疾患別

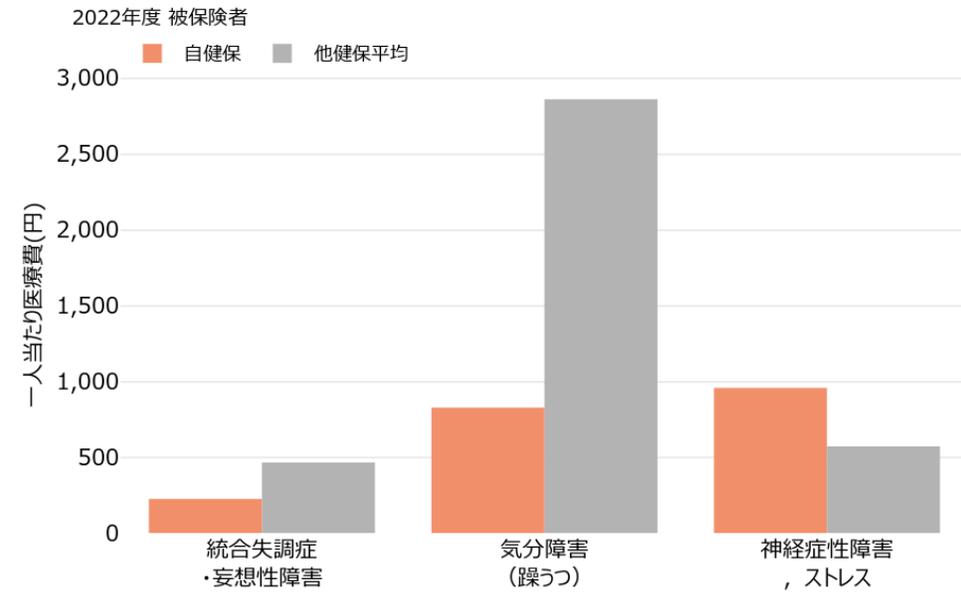


シ【一人当たり医療費：メンタル疾患】

■ 疾病大分類別一人当たり医療費 経年変化

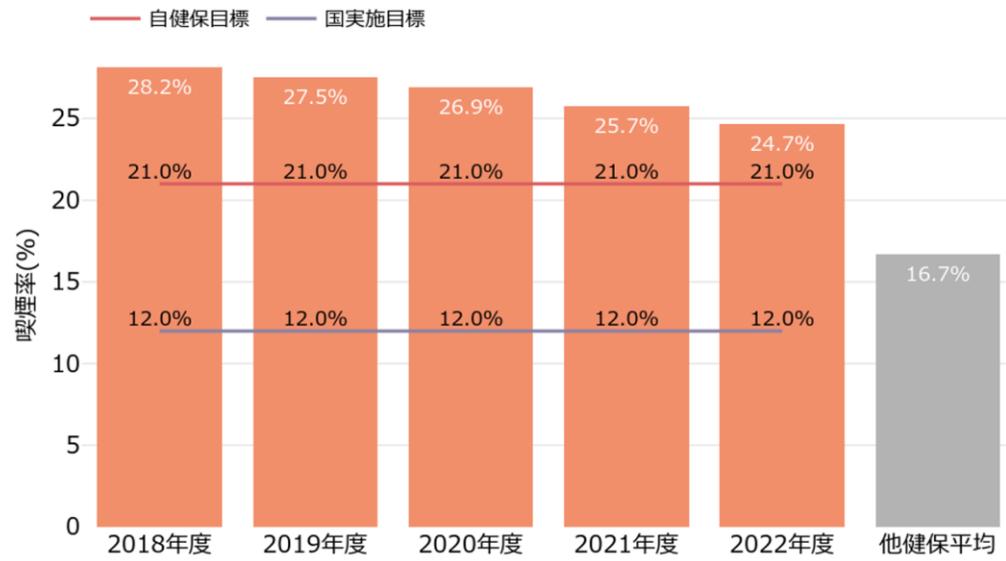


■ メンタル系疾患一人当たり医療費 疾患別

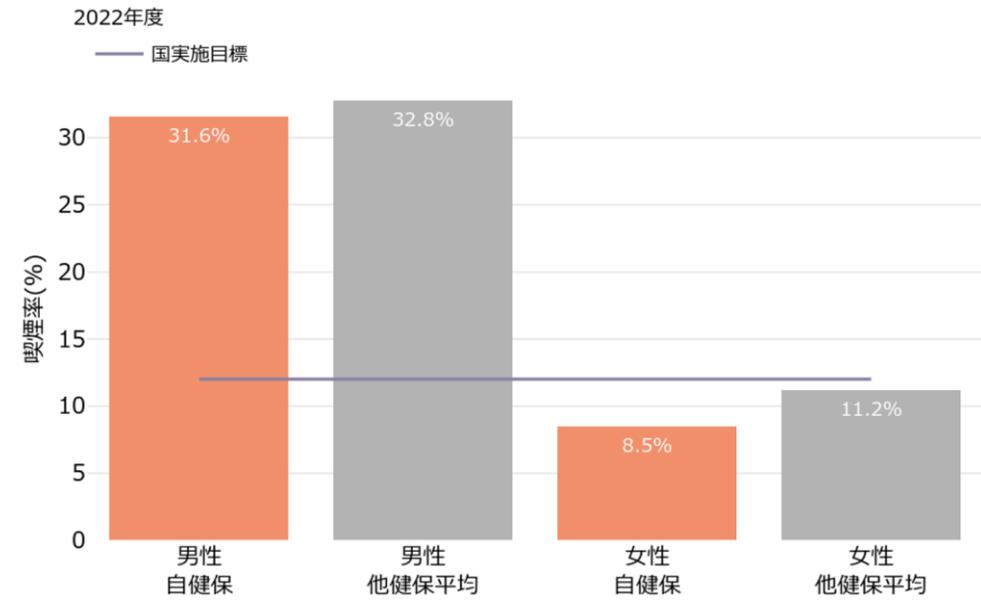


又【喫煙率】

■ 喫煙率 経年変化

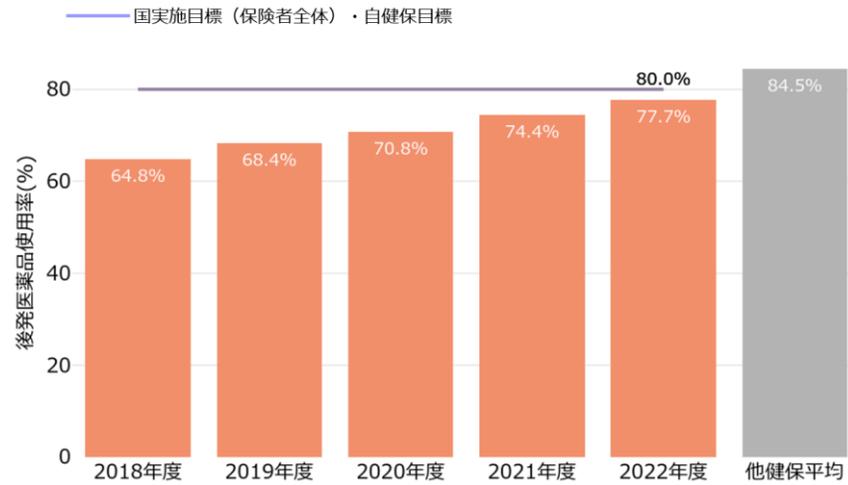


■ 喫煙率 性別別

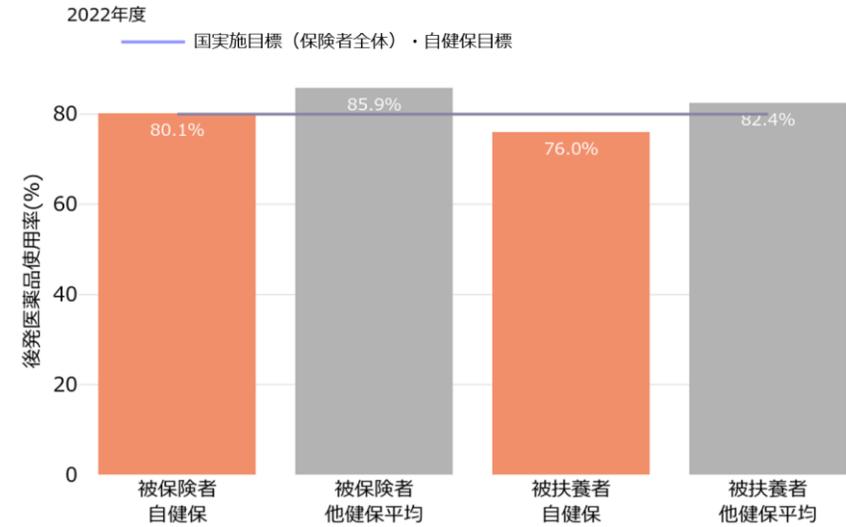


セ【後発医薬品使用率】

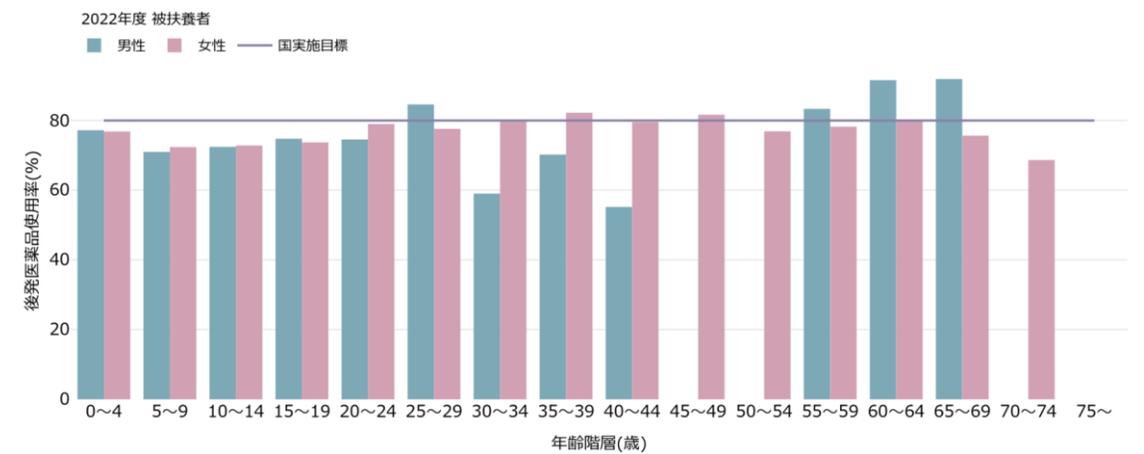
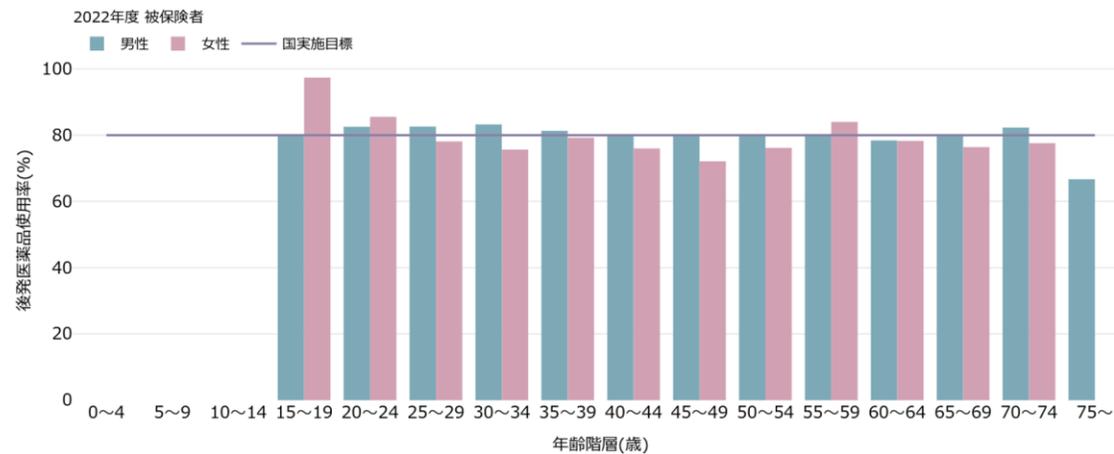
■ 後発医薬品使用率 経年変化



■ 後発医薬品使用率 被保険者・被扶養者別

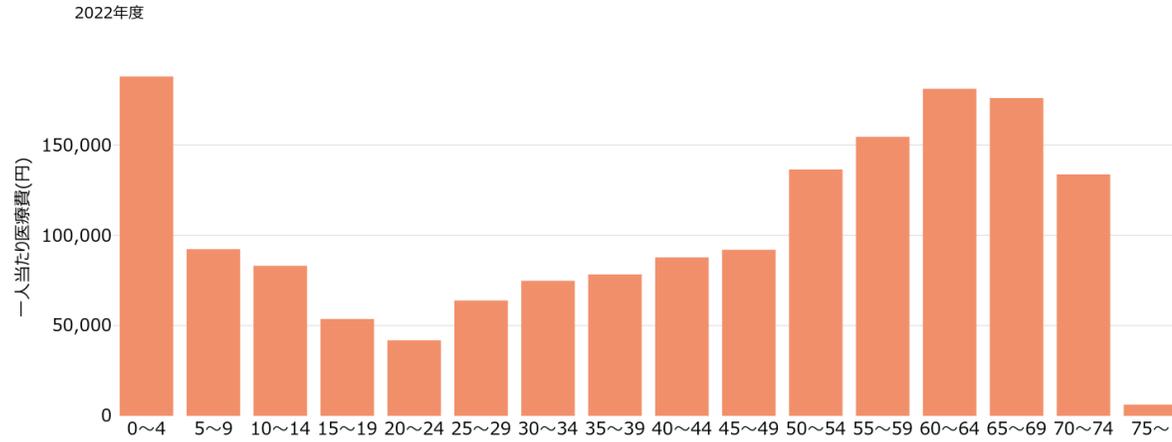


■ 後発医薬品使用率 年代・性別別

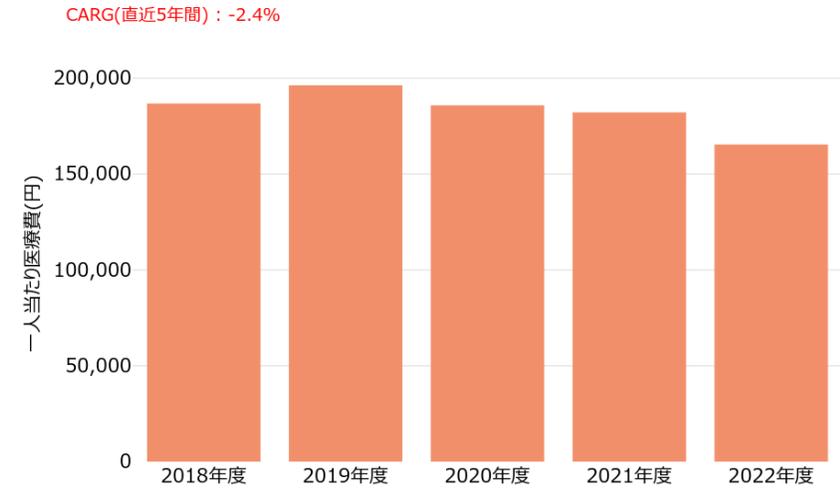


ソ 【前期高齢者の医療費】

■ 年齢階層別一人当たり医療費 年代別



■ 前期高齢一人当たり医療費 経年変化



STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア	特定健診受診率は、全体では単一健保目標より低いが、被保険者の受診率は90%に達している。被扶養者の実施率は約60%で単一健保目標より低い。早期に健康リスクを把握し、生活習慣病とその重症化リスクを予防するために、受診率を上げることが必要である。	➔	被扶養者の受診率を向上させるための対策が必要である。健診の重要性の啓蒙や、未受診者への受診勧奨（複数回）、被扶養者の健診結果提出促進等を更に強化する。	✓
2	イ	特定保健指導実施率は、被保険者は約46%、被扶養者は約35%で単一健保目標より低い。生活習慣病予防・重症化予防のために実施者を増やすことが必要である。	➔	対象者へ特定保健指導の重要性を啓蒙する。被保険者は事業主（健康支援センター）、被扶養者は外部委託業者との連携により、参加案内を複数回行うなど初回面談参加者を増やす。	✓
3	ウ, エ, オ, カ, キ, ケ	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。 	➔	年齢とともにリスクが高くなるため、若い年代からの予防が必要である。生活習慣改善のための情報提供や教育、特定保健指導の実施率の向上、40歳未満への保健指導、受診勧奨等を行う。運動習慣定着のために、健康づくりイベントの参加者を増やす。	✓
4	キ, コ	疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。	➔	早期発見・早期治療のために、がん検診の受診率を向上させることが必要である。がん検診受診の必要性を理解するための情報提供や、補助を行っている検診の案内、未受診者への受診勧奨を行う。	
5	キ, サ	婦人科系疾患一人当たり医療費では、被保険者は、「乳房・女性性器疾患」が最も高く、次は「他の妊娠、分娩・産じょく」である。	➔	事業主とのコラボヘルスにより、女性特有の健康課題に対する情報提供や教育を行う。また、相談窓口や情報サイトの案内を行い、女性の体調の変化に関する不安の軽減や体調管理をサポートする。	
6	キ, シ	疾病大分類一人当たり医療費では、精神・行動障害は上位にはないが、組合員の不安の軽減・セルフケアのためのサポートが必要と考える。	➔	事業主とのコラボヘルスにより、メンタルヘルスセルフケアに関する教育・情報提供を行う。また、相談窓口や情報サイトの案内を行い、不安の軽減や体調管理をサポートする。	
7	セ	ジェネリック医薬品の使用率は、国実施目標には達していないが、順調に推移している。	➔	季刊誌でのお知らせを継続し、WEBでの医療費通知の確認（差額の確認）を推奨する。	
8	ソ	他の年代に比べて前期高齢者の医療費が高い。雇用延長が進む中、今後さらなる上昇が懸念される。この年代になる前に、しっかり健康管理を行うこと、また前期高齢者に特化した健康管理の教育を行うことが必要である。	➔	疾患の早期発見・早期治療、また生活習慣改善のために特定健診・がん検診の受診率の向上、特定保健指導の実施率の向上を目指す。また、この年代に特化した健康管理対策の情報提供を行う。	
9	ス	喫煙率は減少傾向にあるが、国実施目標には達していない。喫煙者・受動喫煙者の健康を守るために、禁煙対策が必要である。	➔	・被保険者は事業主健康支援センターの禁煙施策を積極的に利用するよう促し、被扶養者については季刊誌やHPでの禁煙啓蒙をする。	
10	キ, ク	疾病大分類一人当たり医療費では「呼吸器系疾患」が上位にある。経年的に増加しているが他健保平均よりは低い。血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費が最も多いが、コロナ禍で流行が抑えられていたインフルエンザの流行が今後懸念される。年代別にみると、10歳未満の医療費が高い。	➔	免疫力が抵抗している人が増加しているので、ワクチン接種の促進が必要である。	

11	ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, ク, ケ, コ, サ, シ, ス, セ, ソ	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。	 ホームページ・季刊誌・書籍・健診結果・相談窓口等を通じて、性別や年代に特化した健康課題や疾病、その予防法を周知し、ヘルスリテラシーを上げるとともに、継続したセルフケアを促す。	
----	---	---	--	--

基本情報

No.	特徴	対策検討時に留意すべき点
1	被保険者は男性が多く、平均年齢は男女共に40歳を超えている。	 <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の男性比率は高いため、かつ、宿泊勤務従事者も多く不規則な生活習慣を強いられていることから、生活習慣病を重点的に行う必要がある。 ・加入者の加齢とともに医療費が増えていることから、病気の早期発見、早期治療を目的に各種健診の受診率向上に努める。

保健事業の実施状況

No.	特徴	対策検討時に留意すべき点
1	被扶養者の特定健診・特定保健指導の実施率が低い。	 健診・保健指導委託業者の連携により、健診後の対象者への案内を円滑に進める。受診・参加勧奨を強化する。
2	・人間ドック、胃検診等の検診を長年実施している分、受診率は横ばいであり、「無関心層」への訴求に至っていない。	 ・各種検診の「無関心層」への訴求のための施策立案と事業の継続。
3	検査数値の高リスク者に、未受診者・コントロール不良者がいる。	 被扶養者への施策立案を行う。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

・生活習慣病とその重症化疾患予防のために、健診を毎年受け、体の変化に早期に気づき、生活習慣改善や治療を受けることが重要である。そのためには、特定健診受診率・特定保健指導の実施率をあげること、要医療者、コントロール不良者への対応が必要である。

事業全体の目標

特定健診実施率
被保険者：90%以上 被扶養者:70%
特定保健指導実施率
60%（被保険者・被扶養者合算で）
要医療者への受診勧奨、重症化予防事業を実施（実施率は初年度の数値を見て検討する）

事業の一覧

職場環境の整備

保健指導宣伝	健康保険委員講習会
--------	-----------

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	健康情報誌配付
保健指導宣伝	健康管理カレンダー配布
保健指導宣伝	ホームページによる情報提供
保健指導宣伝	女性向け健康教室

個別の事業

特定健康診査事業	特定健康診査（被保険者）
特定健康診査事業	特定健康診査（被扶養者・任意継続者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	被扶養者向け情報提供
保健指導宣伝	被扶養者向けイベント
保健指導宣伝	育児冊子配付
保健指導宣伝	健康づくりマラソン
疾病予防	家族健康診断
疾病予防	人間ドック受診補助
疾病予防	胃集団検診
疾病予防	腹部エコー検査
疾病予防	大腸がん検診
疾病予防	乳がん・子宮がん検診
疾病予防	C型肝炎ウイルス検査
疾病予防	受診勧奨
疾病予防	糖尿病性腎症重症化予防事業
疾病予防	定年退職者向け健康情報提供
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	インフルエンザ予防接種費用補助
体育奨励	運動会費用補助
体育奨励	駅伝大会費用補助
体育奨励	野球大会費用補助
体育奨励	職場体育助成金

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連							
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画													
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度						
職場環境の整備												アウトプット指標					アウトカム指標									
保健指導宣伝	1	既存	健康保険委員講習会	全て	男女	18～74	被保険者、被扶養者	3	ス	年2回実施	ア、イ、シ	事業主の人事部と、健康保険組合で実施。	事業主の人事部と、健康保険組合で年2回実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	-	0	10	-	<p>特定健診受診率は、全体では単一健保目標より低い。被保険者の受診率は90%に達している。被扶養者の実施率は約60%で単一健保目標より低い。早期に健康リスクを把握し、生活習慣病とその重症化リスクを予防するために、受診率を上げることが必要である。</p> <p>特定保健指導実施率は、被保険者は約46%、被扶養者は約35%で単一健保目標より低い。生活習慣病予防・重症化予防のために実施者を増やすことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。 <p>疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。</p> <p>婦人科系疾患一人当たり医療費では、被保険者は、「乳房・女性性器疾患」が最も高く、次は「他の妊娠、分娩・産じょく」である。</p> <p>疾病大分類別一人当たり医療費では、精神・行動障害は上位にはないが、組合員の不安の軽減・セルフケアのためのサポートが必要と考える。</p> <p>他の年代に比べて前期高齢者の医療費が高い。雇用延長が進む中、今後さらなる上昇が懸念される。この年代になる前に、しっかり健康管理を行うこと、また前期高齢者に特化した健康管理の教育を行うことが必要である。</p> <p>喫煙率は減少傾向にあるが、国実施目標には達していない。喫煙者・受動喫煙者の健康を守るために、禁煙対策が必要である。</p> <p>疾病大分類一人当たり医療費では「呼吸器系疾患」が上位にある。経年的に増加しているが他健保平均よりは低い。血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費が最も多いが、コロナ禍で流行が抑えられていたインフルエンザの流行が今後懸念される。年代別にみると、10歳未満の医療費が高い。</p>		
																									実施回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)-	
加入者への意識づけ																										
-																										

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
保健指導宣伝	2,5	既存	健康情報誌配付	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ス	・年4回、季刊誌を被保険者自宅宛て郵送。4月、8月、10月、1月・年1回ジェネリックのお知らせを載せている	ク,コ,シ	業務委託先あり	健康保険制度の周知、健保組合の収支情報、保健事業の広報を行う。	継続	継続	継続	継続	継続	保健誌を配布して、健保制度、収支、保健事業についての情報発信を行う。	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。 ジェネリック医薬品の使用率は、国実施目標には達していないが、順調に推移している。
	配布回数(【実績値】4回 【目標値】令和6年度：4回 令和7年度：4回 令和8年度：4回 令和9年度：4回 令和10年度：4回 令和11年度：4回)-												健康情報誌による情報提供には様々なものがあるが、効果検証として数値の設定は困難なため(アウトカムは設定されていません)							
	2,5	既存	健康管理カレンダー配布	全て	男女	18～65	被保険者	1	ス	健康情報をカレンダーに掲載し、各職場に配布。事務室等に掲示してもらう	ア,シ	毎年年末に配布	健康情報をカレンダーに掲載し、各職場の事務室等に掲示してもらい、健康意識を高める。	継続	継続	継続	継続	継続	健康意識の向上を目指す。	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。
	配布回数(【実績値】1回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												カレンダーによる情報提供のため、効果検証として数値の設定は困難なため(アウトカムは設定されていません)							
	2,5	既存	ホームページによる情報提供	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ,ス	外部インターネット上で閲覧可能なホームページを提出し、健保組合の仕組みや各種給付等に関する情報提供をする	コ,シ	-	健康保険制度の情報、保険給付の申請に関する情報、保健事業への取り組み等を提供する。	継続	継続	継続	継続	継続	健保組合からの情報発信を行う。	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。
情報発信の回数(【実績値】10回 【目標値】令和6年度：10回 令和7年度：10回 令和8年度：10回 令和9年度：10回 令和10年度：10回 令和11年度：10回)-												ホームページ閲覧による保健事業の理解・健康意識の変化等の効果検証は困難なため(アウトカムは設定されていません)								
5	既存	女性向け健康教室	全て	女性	18～65	被保険者	3	キ,ク,ケ,サ	事業主と共同で女性向け健康教室を30代40代女性被保険者を対象に実施。	ア,イ,ク,コ	健康支援センターが受診者にアンケートを実施	事業主と共同で、女性特有の疾病についての講習会を実施する。	継続	継続	継続	継続	継続	事業主と共同で講習会を実施して、女性特有の疾病・健康情報を提供し、疾病予防に努める。	婦人科系疾患一人当たり医療費では、被保険者は、「乳房・女性性器疾患」が最も高く、次は「他の妊娠、分娩・産じょく」である。	
参加率(【実績値】70% 【目標値】令和6年度：70% 令和7年度：70% 令和8年度：70% 令和9年度：70% 令和10年度：70% 令和11年度：70%)-												満足度・理解度%(【実績値】90% 【目標値】令和6年度：90% 令和7年度：90% 令和8年度：90% 令和9年度：90% 令和10年度：90% 令和11年度：90%)-								

個別の事業

特定健康診断事業	3	既存(法定)	特定健康診断(被保険者)	全て	男女	40～74	被保険者	2	キ,ク,ケ,サ	被保険者は事業主の定期健康診断結果の提供。	ア,カ,コ	-	メタボリックシンドロームに着目した健康診断を実施する。	継続	継続	継続	継続	継続	被扶養者の特定健診受診率の向上	特定健診受診率は、全体では単一健保目標より低いが、被保険者の受診率は90%に達している。被扶養者の実施率は約60%で単一健保目標より低い。早期に健康リスクを把握し、生活習慣病とその重症化リスクを予防するために、受診率を上げることが必要である。
	特定健診実施率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：97.5% 令和7年度：97.6% 令和8年度：97.7% 令和9年度：97.8% 令和10年度：97.9% 令和11年度：98.0%)被保険者												内臓脂肪症候群該当者割合(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：22.0% 令和7年度：21.8% 令和8年度：21.6% 令和9年度：21.4% 令和10年度：21.2% 令和11年度：21.0%)-							
	3	既存(法定)	特定健康診断(被扶養者・任意継続者)	全て	男女	40～74	被扶養者,任意継続者	1	キ,ク,ケ	被扶養者は家族検診として業務委託し実施。	カ,コ	-	被扶養者の特定健診受診率の向上	継続	継続	継続	継続	継続	被扶養者の特定健診受診率の向上	特定健診受診率は、全体では単一健保目標より低いが、被保険者の受診率は90%に達している。被扶養者の実施率は約60%で単一健保目標より低い。早期に健康リスクを把握し、生活習慣病とその重症化リスクを予防するために、受診率を上げることが必要である。
特定健診実施率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：64.0% 令和7年度：66.0% 令和8年度：67.0% 令和9年度：68.0% 令和10年度：69.0% 令和11年度：70.0%)-												内臓脂肪症候群該当者割合(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：7% 令和7年度：7% 令和8年度：6% 令和9年度：6% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)-								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		
アウトプット指標												アウトカム指標								
特定保健指導事業	4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	加入者全員,基準該当者	1	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,サ	被保険者は事業主に依頼し実施。被扶養者は外部業務委託にて実施。遠隔面談利用可。	ア,ウ,ク,コ		事業主医療機関と保健指導事業者による特定保健指導を実施する。	継続	継続	継続	継続	継続	特定保健指導対象者の受診率の向上	特定保健指導実施率は、被保険者は約46%、被扶養者は約35%で単一健保目標より低い。生活習慣病予防・重症化予防のために実施者を増やすことが必要である。
保健指導宣伝	5	新規	被扶養者向け情報提供	全て	男女	0～74	被扶養者	1	ス	年4回、コラボヘルスの一環として事業主保健師に原稿を依頼し、健保が発行する季刊誌に健康情報のチラシを同封する。被保険者自宅郵送の季刊誌なので、被扶養者(家族)の健康度向上意識付けを目的とする。	ア,イ		・季節ごとに配付している保健誌に被扶養者向けに健康情報のチラシを同封して配付する。	継続	継続	継続	継続	継続	健康情報を被扶養者あてに発信して、疾病予防に役立てる。	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。
5	既存	被扶養者向けイベント	全て	男女	0～74	被扶養者	3	ア,ケ,ス	コラボヘルスの一環として、事業主・グループ会社と共催で被扶養者参加型イベントを企画し、健康度意識の向上を図る。	ア,コ,シ		事業主と共同で被扶養者向けのイベントを開催し、健康情報を提供する。	継続	継続	継続	継続	継続	家族向けのイベントを開催し、健康情報を提供して、疾病予防を図る。	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。	
																				実施回数(【実績値】 1回 【目標値】 令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)
8	既存	育児冊子配付	全て	女性	20～50	基準該当者	1	ス	第一子出産した加入者に「赤ちゃん！」「お医者さんにかかるまで」を1年間自宅に郵送。	シ		第一子を出産したお母さんに毎月1年間配付する。	継続	継続	継続	継続	継続	扶養認定情報により、第一子を出産したお母さんに育児参考書「赤ちゃん和妈妈」を毎月1年間自宅に送付する。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
																				配付人数(【実績値】 204人 【目標値】 令和6年度：205人 令和7年度：205人 令和8年度：205人 令和9年度：205人 令和10年度：205人 令和11年度：205人)
2	既存	健康づくりマラソン	全て	男女	18～65	被保険者	1	ア,ケ	健康強調月間に、健康づくりに関する取り組みを43日間継続し、完走した人には完走賞を贈呈する。	ア,コ,シ		・健康強調月間において、健康づくりに取り組むマラソンとして43日間継続実施する。 ・43日間継続実施した参加者に完走賞を贈呈する。	継続	継続	継続	継続	継続	取り組む事業所の偏りがあるため、参加者の増を促す。	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。	
																				参加案内回数(【実績値】 1回 【目標値】 令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)参加の促進

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連					
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度							
アウトプット指標												アウトカム指標													
疾病予防	3	既存	家族健康診断	全て	男女	20～74	被扶養者,任意継続者	1	キ,ク,ケ	カ,コ	-	特定健康診査を兼ね、委託機関を通じて医療機関を受診する。	継続	継続	継続	継続	継続	任意継続被保険者、被扶養者の健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療を目的とする。	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。 疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。						
案内回数(【実績値】3回 【目標値】令和6年度：3回 令和7年度：3回 令和8年度：3回 令和9年度：3回 令和10年度：3回 令和11年度：3回)受診の促進												受診率(【実績値】60% 【目標値】令和6年度：60% 令和7年度：60% 令和8年度：60% 令和9年度：60% 令和10年度：60% 令和11年度：60%)医療費抑制													
	3	既存	人間ドック受診補助	全て	男女	18～74	被保険者,被扶養者	1	オ,ク,ケ,サ	カ,コ	-	契約する26医療機関で、一泊・日帰りドック受診費用の一部または全額(節目年齢のみ)負担する。	継続	継続	継続	継続	継続	健康状態の把握、疾病の早期発見、早期治療を目的とする。	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。 疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。						
人間ドック受診の促進回数(【実績値】3回 【目標値】令和6年度：3回 令和7年度：3回 令和8年度：3回 令和9年度：3回 令和10年度：3回 令和11年度：3回)受診の促進												受診人数(【実績値】790人 【目標値】令和6年度：800人 令和7年度：800人 令和8年度：800人 令和9年度：810人 令和10年度：810人 令和11年度：810人)-													
	3	既存	胃集団検診	全て	男女	18～74	被保険者	1	ウ,キ,ケ,サ	ア,カ,コ	-	集団検診、内視鏡検査を事業主に一部委託して実施。医療機関との契約、費用は全額健保組合負担。 ・検診車による巡回検診を腹部エコー検査と併せて実施する。 ・受診促進	継続	継続	継続	継続	継続	胃疾患の早期発見・早期治療	疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。						
受診率(【実績値】10.2% 【目標値】令和6年度：11% 令和7年度：12% 令和8年度：12% 令和9年度：13% 令和10年度：13% 令和11年度：13%)受診の促進												設定しない(がん治療アウトカムには、保険者の取組で関与が難しいため)(アウトカムは設定されていません)													
	3	既存	腹部エコー検査	全て	男女	40～74	被保険者	1	ウ,キ,ケ,サ	ア,カ,コ	-	胃集団検診、内視鏡検査と併せて事業主に委託して実施。医療機関との契約、費用は健保が全額負担。 ・胃集団検診と同時に超音波による検査を実施する。 ・受診促進	継続	継続	継続	継続	継続	内臓疾患の早期発見・早期治療	疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。						
受診率(【実績値】13% 【目標値】令和6年度：13% 令和7年度：14% 令和8年度：14% 令和9年度：15% 令和10年度：15% 令和11年度：15%)-												がん治療アウトカムには、保険者の取組で関与が難しいため(アウトカムは設定されていません)													
	3	既存	大腸がん検診	全て	男女	18～74	被保険者	1	ウ,キ,ケ,サ	ア,カ,コ	-	一次検査(郵便検査)と二次検査(内視鏡)を委託医療機関で実施。 ・大腸がん検査キットを郵送による検診。	継続	継続	継続	継続	継続	大腸疾患の早期発見・早期治療	疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。						
受診率(【実績値】27.7% 29.0%)受診の促進												【目標値】令和6年度：28.0% 令和7年度：28.2% 令和8年度：28.4% 令和9年度：28.6% 令和10年度：28.8% 令和11年度：-						がん治療アウトカムには、保険者の取組で関与が難しいため(アウトカムは設定されていません)							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
3	既存	乳がん・子宮がん検診	全て	女性	18～74	被保険者	1	ウ,キ,ク,サ	契約医療機関で11～2月に乳がん(エコーかマンモグラフィ)子宮がん検診実施。全額健保負担。各所属で希望者名簿集約、健保組合で医療機関毎に集約し提出。	ア,カ,コ	-	・乳がん、子宮がん検診を契約医療機関で実施する。 ・受診促進	継続	継続	継続	継続	継続	婦人科疾患の早期発見・早期治療	疾病大分類一人当たり医療費では「新生物」が上位にある。経年的な増加は見られず、他健保平均よりは低い。男性は大腸がん、女性は乳がんの医療費が最も高い。
乳がん検診受診率(【実績値】52.8% 【目標値】令和6年度:53.0% 令和7年度:53.2% 令和8年度:53.4% 令和9年度:53.6% 令和10年度:53.8% 令和11年度:54.0%)受診の促進												がん治療アウトカムには、保険者の取組で関与が難しいため(アウトカムは設定されていません)							
子宮がん検診受診率(【実績値】49.7% 【目標値】令和6年度:50.0% 令和7年度:50.2% 令和8年度:50.4% 令和9年度:50.6% 令和10年度:50.8% 令和11年度:51.0%)-																			
3	既存	C型肝炎ウイルス検査	全て	男女	40～74	被保険者	1	ス	-	ア,シ	希望者は事業主診療所で検査受診が可能。	事業主医療機関で検査を実施する。	継続	継続	継続	継続	継続	40歳以上の被保険者の肝炎の早期発見	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
検査人数(【実績値】- 【目標値】令和6年度:3人 令和7年度:3人 令和8年度:3人 令和9年度:3人 令和10年度:3人 令和11年度:3人)早期治療												希望者の検査であるため、肝炎の早期発見の指標の設定は困難なため(アウトカムは設定されていません)							
4	新規	受診勧奨	全て	男女	20～74	被扶養者,基準該当者	1	イ,キ,ク,ケ	家族健診受診者(20～74歳)の内、判定結果が「要医療」となった者に医療機関受診の案内を発送する。医療機関受診状況(受診(治療)・未受診・受診予定・受診するつもり無、受診者は医療機関名・受診日記入依頼)について、ハガキ返送を依頼。	コ,シ	対象検査項目 血圧、血液検査(肝・膵機能、脂質、腎機能、糖代謝、尿酸、血液一般)、心電図、胸部X線、胃部検査、便潜血、眼底、子宮頸がん、乳がんエコー、マンモ)	・家族健診受診者(20～74歳)の内、判定結果が「要医療」となった者に医療機関受診の案内を発送。 ・医療機関受診状況について、ハガキ返送を依頼。	継続	継続	継続	継続	継続	医療受診にて、検査・治療・生活習慣指導を受けることにより、疾患の早期発見・早期治療、生活習慣病の予防・重症化リスクを軽減する。また、将来の医療費増大を抑制する。	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。
案内回数(【実績値】- 【目標値】令和6年度:2回 令和7年度:2回 令和8年度:2回 令和9年度:2回 令和10年度:2回 令和11年度:2回)-												実施率(【実績値】- 【目標値】令和6年度:90% 令和7年度:90% 令和8年度:90% 令和9年度:90% 令和10年度:90% 令和11年度:90%)-							
4	新規	糖尿病性腎症重症化予防事業	全て	男女	20～74	被扶養者,基準該当者	1	イ,オ,キ,ク,ケ	厚労省が定める腎症基準の該当者を基幹システムより抽出し、受診中の者にプログラム案内を発送。申込者に12ヵ月プログラムを委託先が実施。	ウ,ク,コ	レセプト・健診データで効果確認。	12ヵ月プログラムを委託先が実施。健保がレセプト・健診データで効果確認。	継続	継続	継続	継続	継続	人工透析への移行防止、適正受診・服薬の実施、主治医との連携、生活習慣改善。	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。
案内回数(【実績値】- 【目標値】令和6年度:2回 令和7年度:2回 令和8年度:2回 令和9年度:2回 令和10年度:2回 令和11年度:2回)-												実施率(【実績値】- 【目標値】令和6年度:30% 令和7年度:30% 令和8年度:30% 令和9年度:30% 令和10年度:30% 令和11年度:30%)-							
5	新規	定年退職者向け健康情報提供	全て	男女	65～74	定年退職予定者	1	ク,ス	適用事業所の定年退職者もしくは対象年齢退職者に、自治体等での健康診断受診の啓蒙や高齢期の健康づくりのポイントを紹介した冊子を配付する。	ア,コ,シ	配付は事業主人事総務部と連携し行う予定。	適用事業所の定年退職者もしくは対象年齢退職者に、自治体等での健康診断受診の啓蒙や高齢期の健康づくりのポイントを紹介した冊子を配付する。	継続	継続	継続	継続	継続	定年退職後の健康管理の実践	他の年代に比べて前期高齢者の医療費が高い。雇用延長が進む中、今後さらなる上昇が懸念される。この年代になる前に、しっかり健康管理を行うこと、また前期高齢者に特化した健康管理の教育を行うことが必要である。
情報提供率(【実績値】- 【目標値】令和6年度:90% 令和7年度:90% 令和8年度:90% 令和9年度:90% 令和10年度:90% 令和11年度:90%)-												退職時の情報提供のため、その後の効果は確認できない(アウトカムは設定されていません)							
6	既存	電話健康相談	全て	男女	0～74	加入者全員	1	オ,ケ	身体の不調、医療・福祉等など保健師・看護師・栄養士など専門家が電話で相談に応じる。356日24時間利用可能。委託業者あり。	ク,コ,シ	-	加入者を対象に病気・介護などの相談サービスを実施する。(365日24時間利用可能)	継続	継続	継続	継続	継続	医療情報の提供	【健康意識の醸成】 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病やその他疾病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防し健康増進を図る。

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連							
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画													
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度						
アウトプット指標												アウトカム指標														
利用件数(【実績値】150件 【目標値】令和6年度：170件 令和7年度：180件 令和8年度：200件 令和9年度：200件 令和10年度：200件 令和11年度：200件)-												健康相談では様々な相談があり、効果の指標設定が困難なため(アウトカムは設定されていません)														
8	既存		インフルエンザ予防接種費用補助	全て	男女	18～74	被保険者	1	ス	事業主の定期健康診断委託医療機関と契約し、秋定期健康診断時に同健診会場にて実施。	ア,コ	-	事業主が秋に実施する定期健康診断時に接種できるように設定し、費用は全額健保負担する。	継続	継続	31,977	35,502	35,192	継続	継続	継続	インフルエンザ発症者の抑制	疾病大分類一人当たり医療費では「呼吸器系疾患」が上位にある。経年的に増加しているが他健保平均よりは低い。血管運動性鼻炎・アレルギー性鼻炎の一人当たり医療費が最も多いが、コロナ禍で流行が抑えられていたインフルエンザの流行が今後懸念される。年代別に見ると、10歳未満の医療費が高い。			
利用率(【実績値】69% 【目標値】令和6年度：70% 令和7年度：70% 令和8年度：70% 令和9年度：70% 令和10年度：70% 令和11年度：70%)-												罹患率は、様々な要因が影響することからアウトカムとしない(アウトカムは設定されていません)														
8	既存		運動会費用補助	全て	男女	0～74	加入者全員	2	ケ,ス	労働組合が、運動会を主催。	シ	-	協賛金として支給。	継続	継続	-	-	-	継続	継続	継続	健康づくりの取り組みに対する支援	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)			
参加者数(【実績値】4,171人 【目標値】令和6年度：4,200人 令和7年度：4,200人 令和8年度：4,200人 令和9年度：4,300人 令和10年度：4,300人 令和11年度：4,300人)-												毎年実施している運動会に対する協賛金のため(アウトカムは設定されていません)														
8	既存		駅伝大会費用補助	全て	男女	18～65	被保険者	2	ケ,ス	事業主主催の駅伝大会	シ	-	協賛金として支給	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	健康づくりの取り組みに対する支援	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)				
参加チーム数(【実績値】146チーム 【目標値】令和6年度：146チーム 令和7年度：146チーム 令和8年度：146チーム 令和9年度：146チーム 令和10年度：146チーム 令和11年度：146チーム)-												毎年実施している駅伝大会に対する協賛金のため(アウトカムは設定されていません)														
8	既存		野球大会費用補助	全て	男性	18～65	被保険者	2	ケ,ス	事業主の各部予選を勝ち抜いた8チームの中央大会に対する協賛金を支給	シ	-	協賛金として支給	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	健康づくりの取り組みに対する支援	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)				
参加チーム数(【実績値】115チーム 【目標値】令和6年度：115チーム 令和7年度：115チーム 令和8年度：115チーム 令和9年度：115チーム 令和10年度：115チーム 令和11年度：115チーム)-												毎年実施している野球大会に対する協賛金のため(アウトカムは設定されていません)														
8	既存		職場体育助成金	全て	男女	18～65	被保険者	1	ケ,ス	年度内に2回まで、職場人員過半数以上の参加者がある職場レクリエーション実施に、1人1000円の助成金支給。	シ	-	協賛金として支給	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	各職場のスポーツレクリエーションの取り組みに対する支援	・疾病大分類一人当たり医療費で、内分泌・栄養・代謝疾患、循環器疾患が上位にある。 ・内臓脂肪症候群該当者の割合は他健保平均より高く約18%である。特定保健指導対象者の割合は、他健保平均より低く減少傾向にある。 ・検査数値が基準値外の人に、未受診、または服薬していてもコントロール不良者がいる。				
参加者数(【実績値】3,000人 【目標値】令和6年度：4,000人 令和7年度：4,000人 令和8年度：4,000人 令和9年度：4,000人 令和10年度：4,000人 令和11年度：4,000人)-												毎年実施している職場のレクリエーションに対する支援のため(アウトカムは設定されていません)														

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施
ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協議会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築
ケ. 保険者内の専門職の活用(共同設置保健師等を含む) コ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) サ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) シ. その他